# 資　料　編

①県民の健康寿命と健康状態

②県民の生活習慣の現状

③県民の生活習慣病の現状

④本県の特定健診の受診状況

⑤本県の職域の健康状況

⑥健康づくり文化創造プラン（第四次）の参酌標準

⑦健康日本２１（第３次）

⑧鳥取県健康づくり文化創造推進県民会議運営要綱

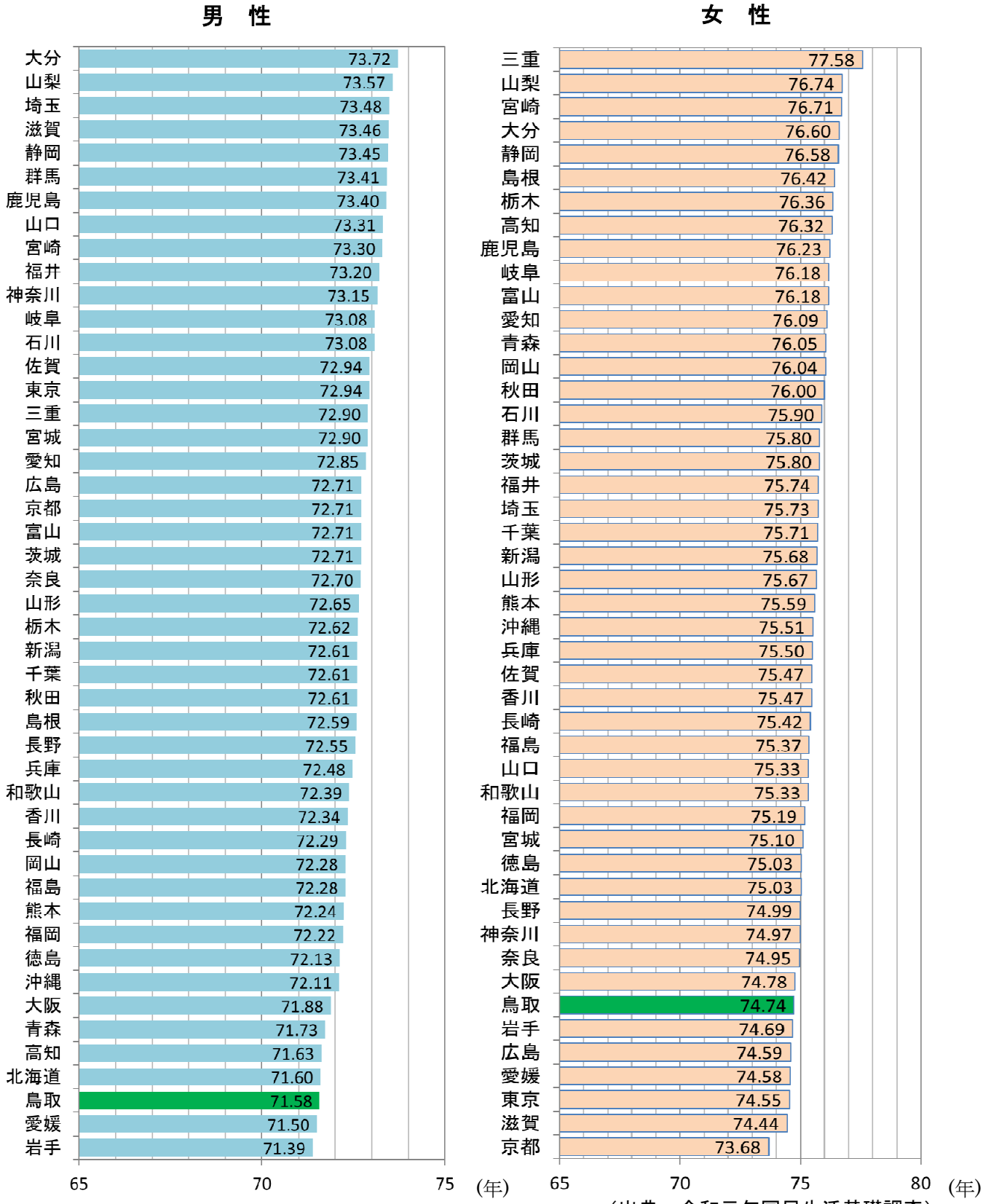
⑨鳥取県健康づくり文化創造プラン（第四次）策定の経過

⑩鳥取県健康づくり文化創造推進会議委員名簿

## 1　県民の健康寿命と健康状態

### （１）健康寿命（都道府県別の日常生活に制限のない期間の平均（令和元年））

鳥取県民の健康寿命は、男性で 71.58 歳（全国で 45 位）、女性で 74.74 歳（全国で 41 位）となっています。なお、令和２年の鳥取県民の平均寿命は、男性で 81.34 歳、女性で 87.91 歳であり、その差は、それぞれ、9.76 歳、13.17 歳の差があります。

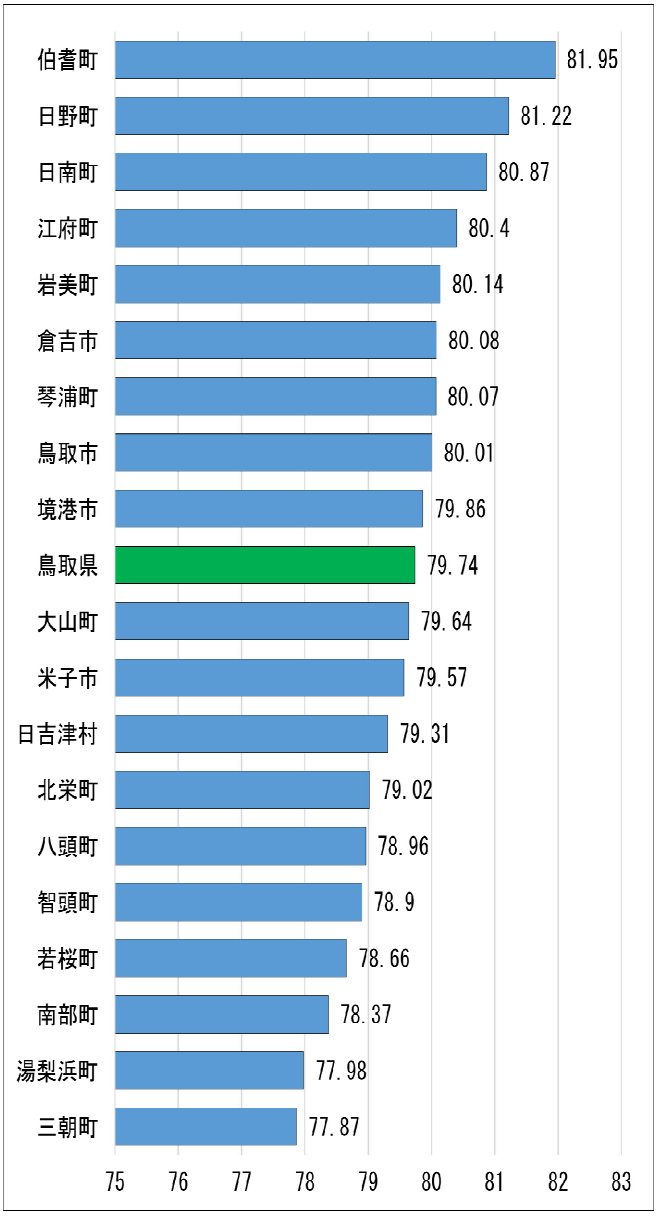



（出典：令和元年国民生活基礎調査）

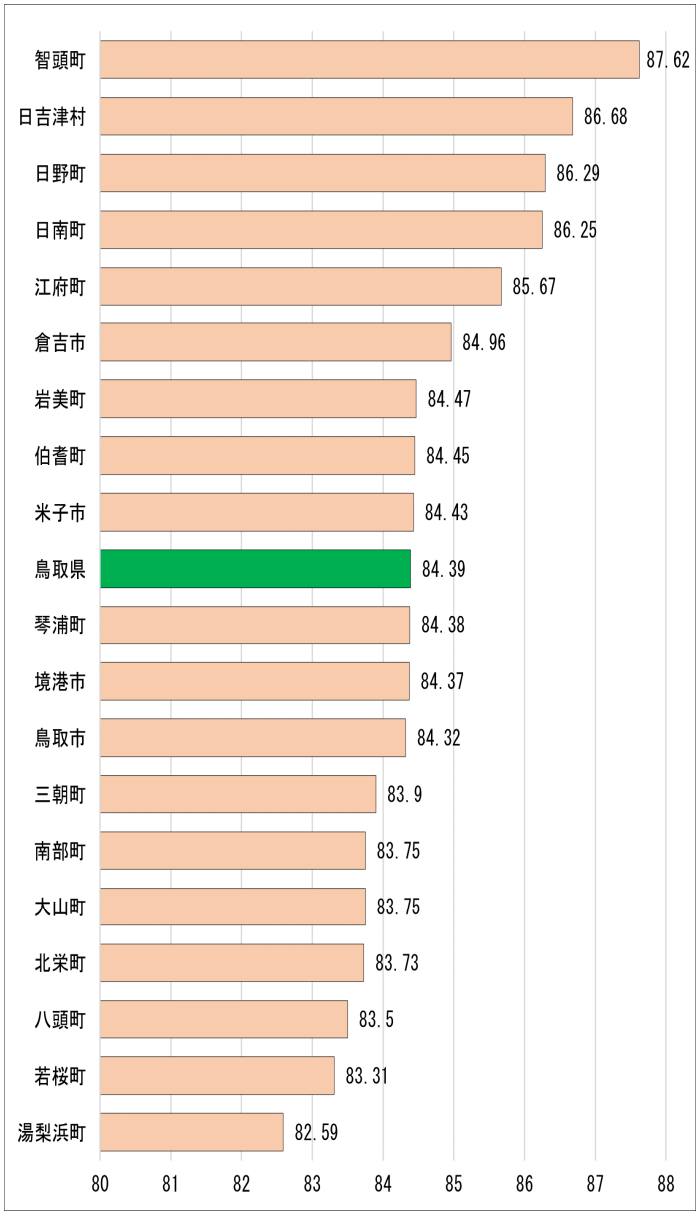
（２）健康寿命（令和２年時点の市町村別平均自立期間）

各市町村の要介護２～５の認定者数のデータから算出した平均自立期間は、男女で大きく差があります。

**男　性**




**女　性**




※各市町村の介護保険の要介護認定者のうち、要介護度２～５の者を不健康（要介護）な状態、それ以外の者を健康＝日常生活が自立している者とし、厚生労働省研究班が公表している「健康寿命の算定方法の指針：健康寿命の算定プログラム」を使用して算出した。（０～３９歳は介護保険の対象外であるため、不健康割合を０と仮定して算出）また、平均寿命＝０歳の人の平均余命も、同じデータソースと算定プログラムを使用して独自に算出した。

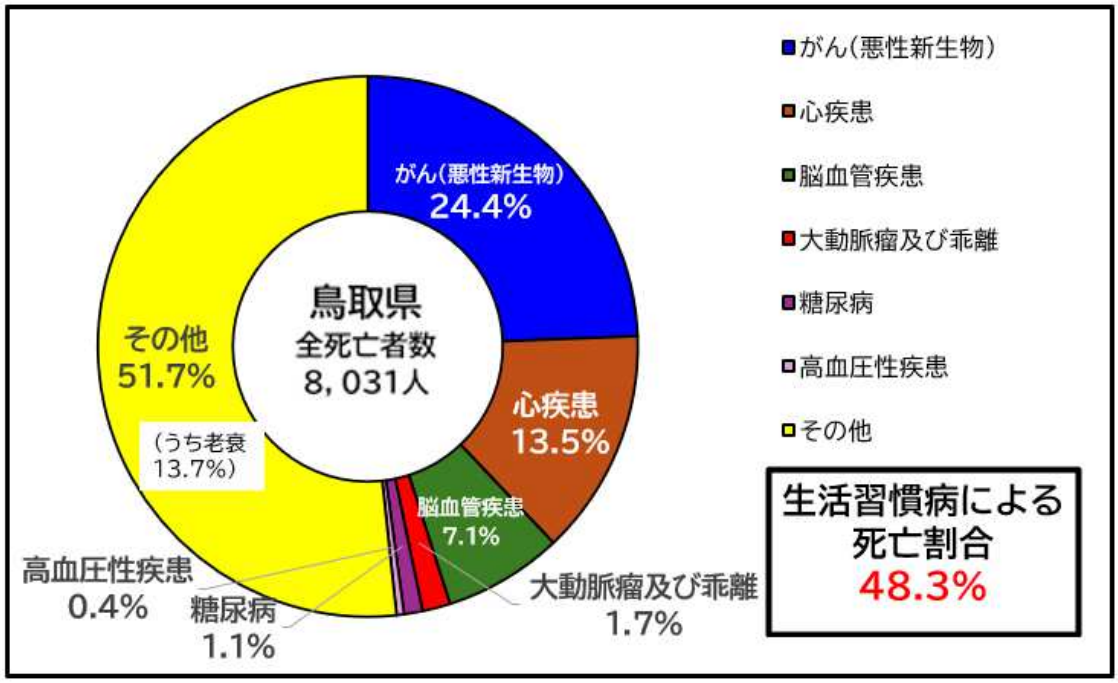
なお、算出にあたっては、対象とする年の前後１年を含む計３年分の人口及び死亡数が必要であるが、令和４年度人口動態統計の結果が未公表のため、令和元年度～３年度の調査結果を用い、令和２年の健康寿命を算出した。

（出典：健康政策課調べ）

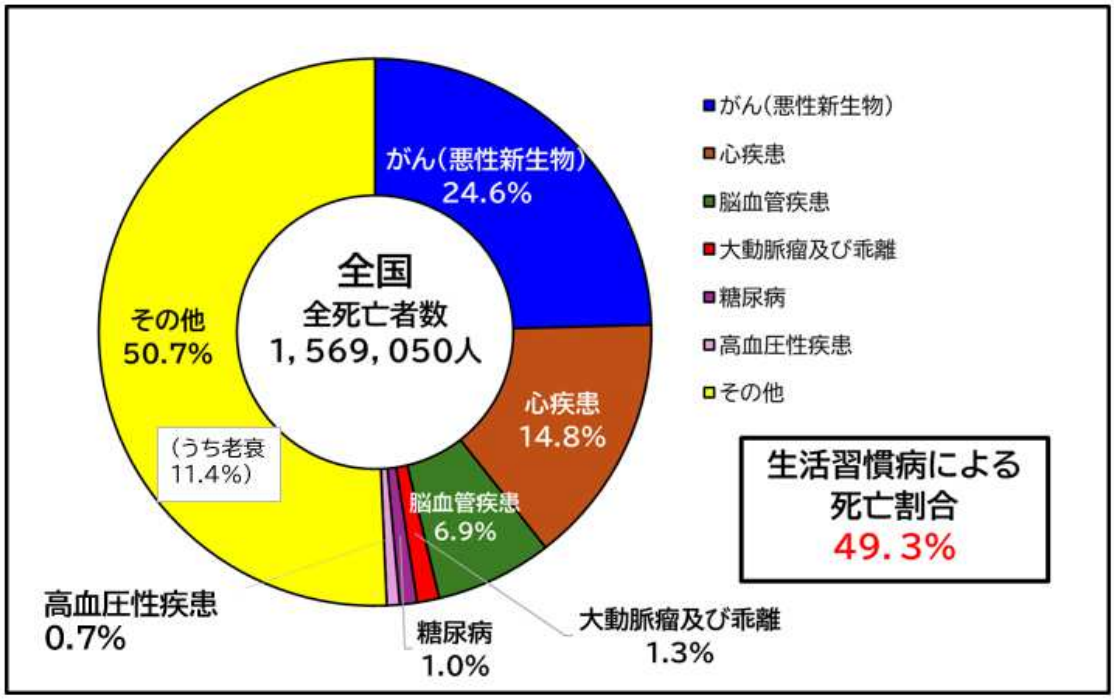
（３）生活習慣病による死因別割合

鳥取県では、全国と同様に、生活習慣病（がん（悪性新生物）、心疾患、脳血管疾患、糖尿病、高血圧性疾患）による死亡が約５割を占めていますが、死亡率は、脳血管疾患と糖尿病を除き、全国と比べ若干低い状況となっています。

ア　本県の生活習慣病による死因別割合（令和４年）




イ　全国の生活習慣病による死因別割合（令和４年）




ウ　本県と全国の生活習慣病による死亡率の比較（令和４年）

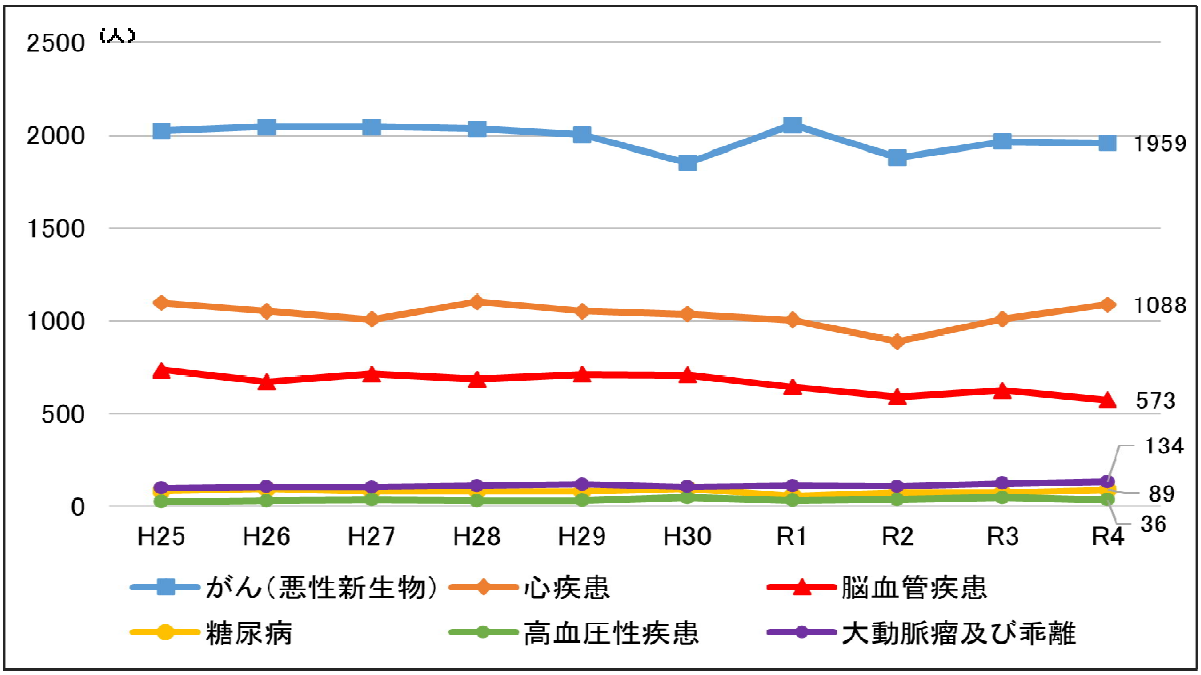
| | | がん（悪性新生物） | 心疾患 | 脳血管疾患 | 糖尿病 | 高血圧性疾患 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 死亡率（人口10万対） | 全国 | 316.1 | 190.9 | 88.1 | 13.1 | 9.6 |
| | 鳥取県 | 363.5 | 201.9 | 106.3 | 16.5 | 6.7 |

（出典：ア～ウとも厚生労働省「人口動態統計」）

（４）本県の生活習慣病による死亡者の推移

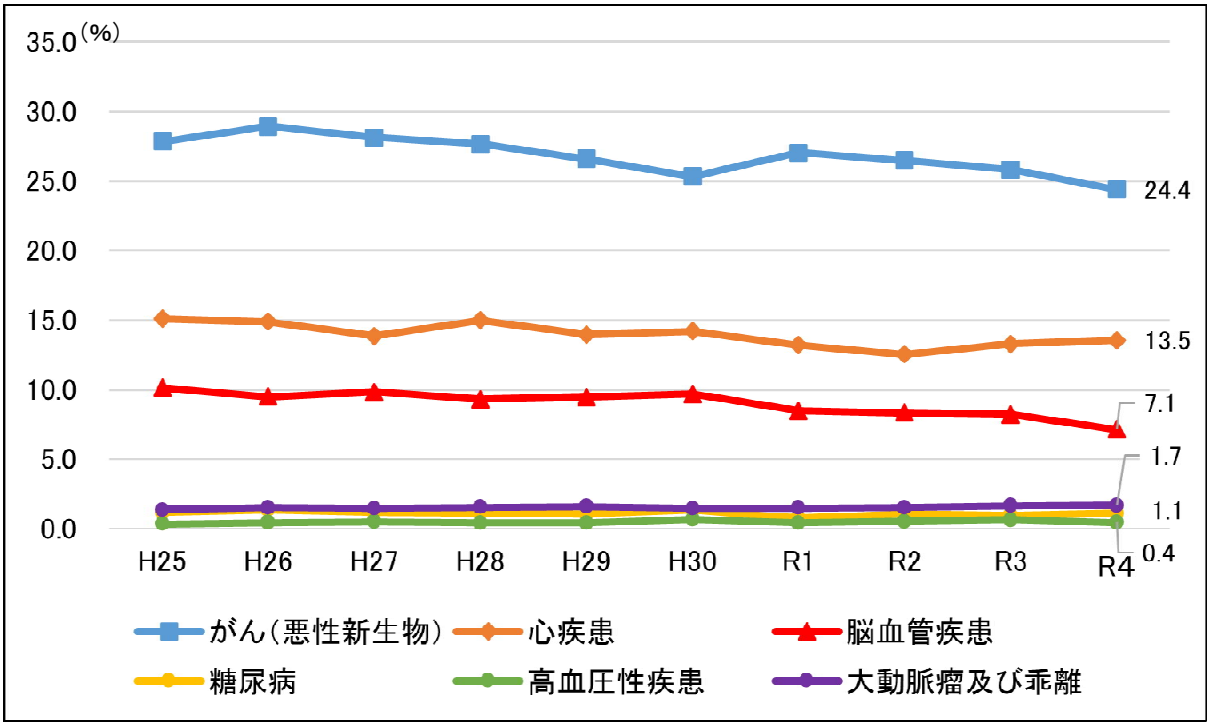
高齢化による死亡者数の増加に伴い、生活習慣病による死亡者数も増加傾向にあります。しかしながら、死因別割合の推移で見ると、脳血管疾患による死亡割合が減少傾向にあり、その他については、ほぼ横ばいの状況となっています。

ア　生活習慣病による死亡者数の推移




（出典：厚生労働省「人口動態統計」）

イ　生活習慣病の死因別割合の推移




（出典：厚生労働省「人口動態統計」）

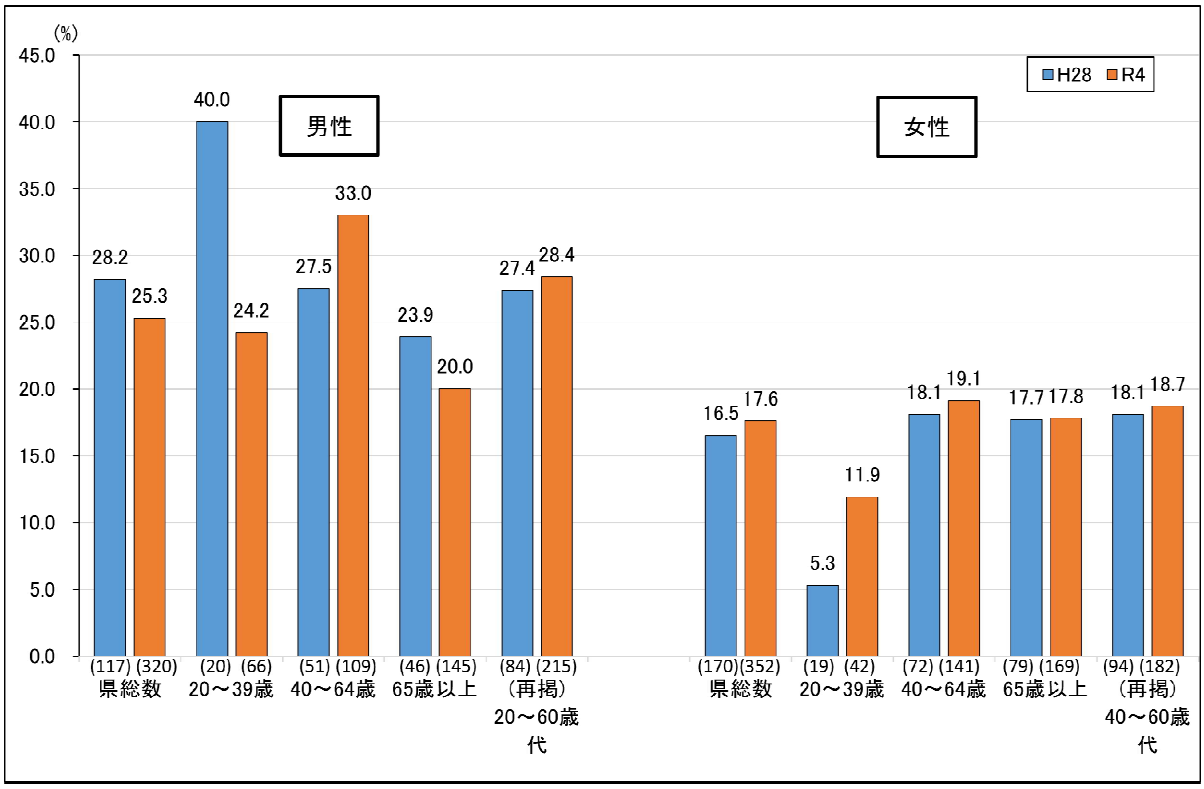


ココカラげんき 鳥取県

## （５）本県の肥満及びメタボリックシンドロームの状況

### ア　肥満者（BMI25 以上）の割合（２０歳以上）

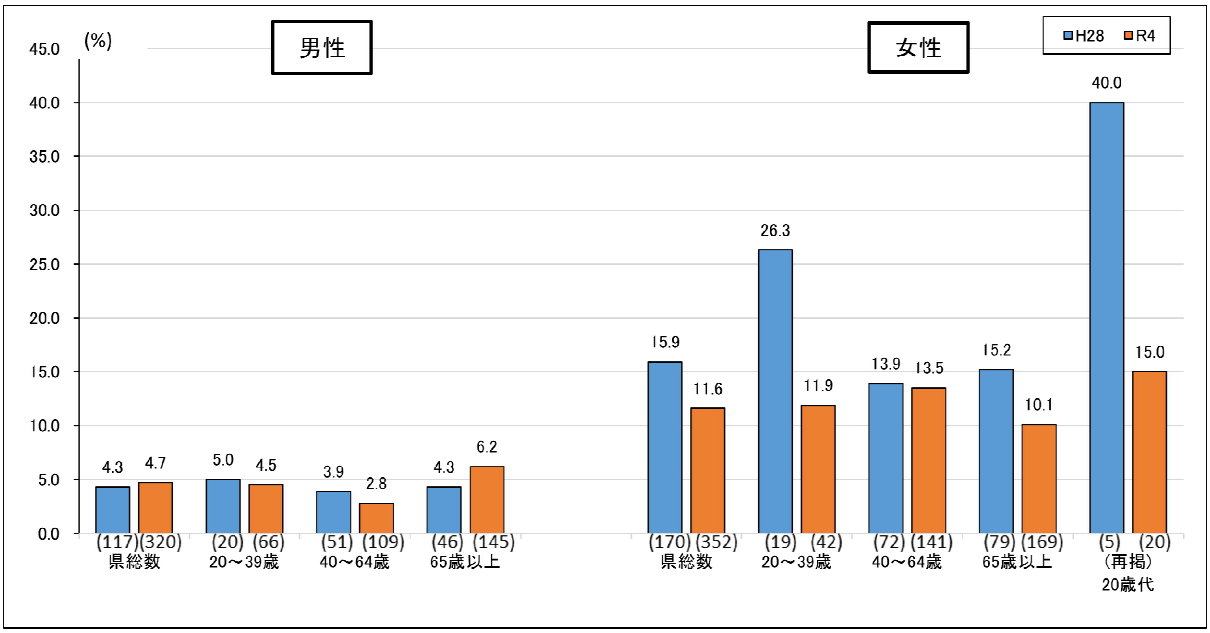
県内の肥満者（BMI25 以上）の割合は、男性では 40～64 歳代がもっとも高く、33.0%、女性では、40～60 歳代で 19.1%でした。




（出典：県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査）

### イ　やせ（BMI１８．５未満）の者の割合（２０歳以上）

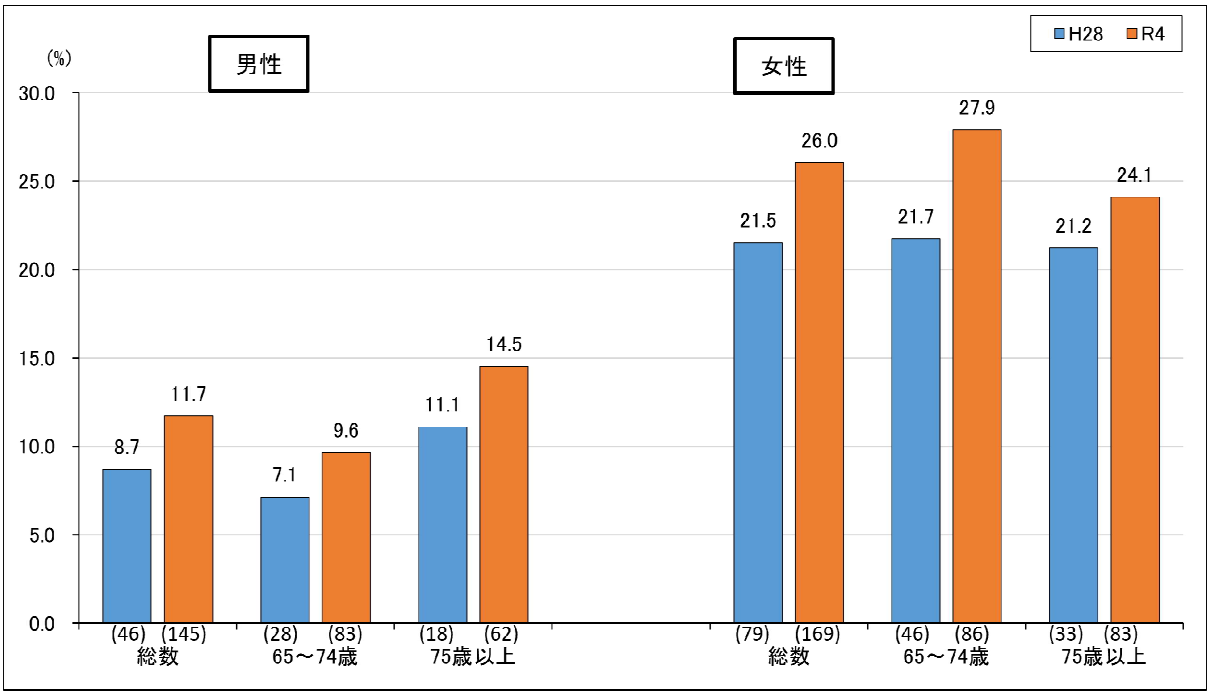
県内のやせ（BMI１８．５未満）の者のうち、20 歳代女性の割合は 15.0%でした。




（出典：県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査）

ウ　低栄養傾向（BMI２０．０以下）の高齢者の割合（６５歳以上）

県内の 65 歳以上の高齢者の低栄養傾向の者は、男性 11.7%、女性 26.0%でした。

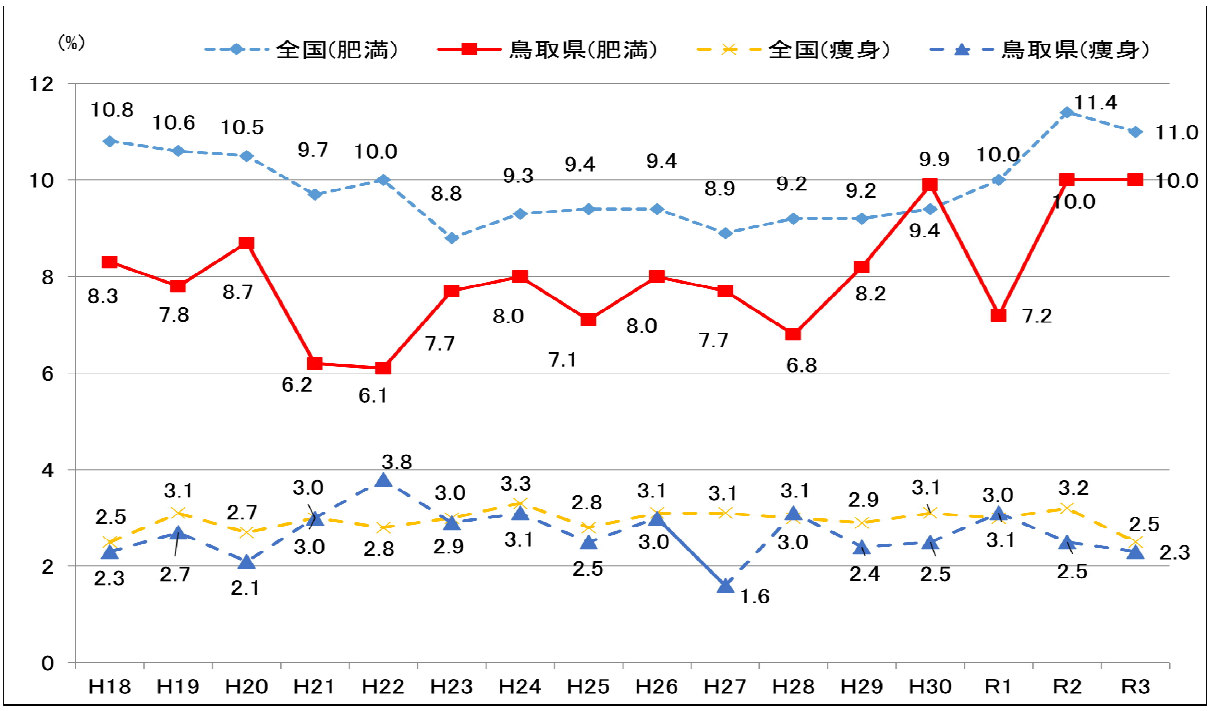



（出典：県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査）

エ　肥満・痩身傾向児の推移（児童・生徒）

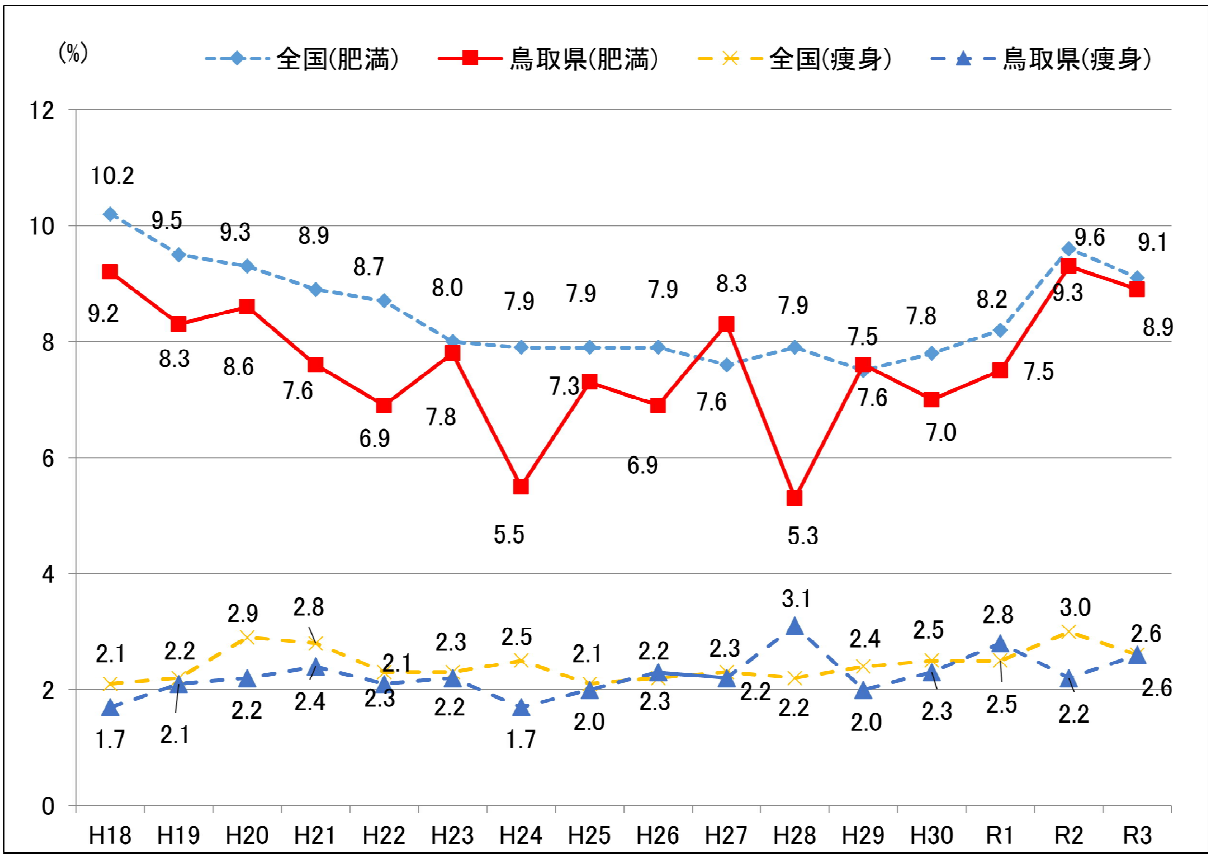
県内の肥満傾向児、痩身傾向児は小学６年生、中学３年生、高校３年生のいずれの学年においても、横ばい傾向でした。

●小学６年生



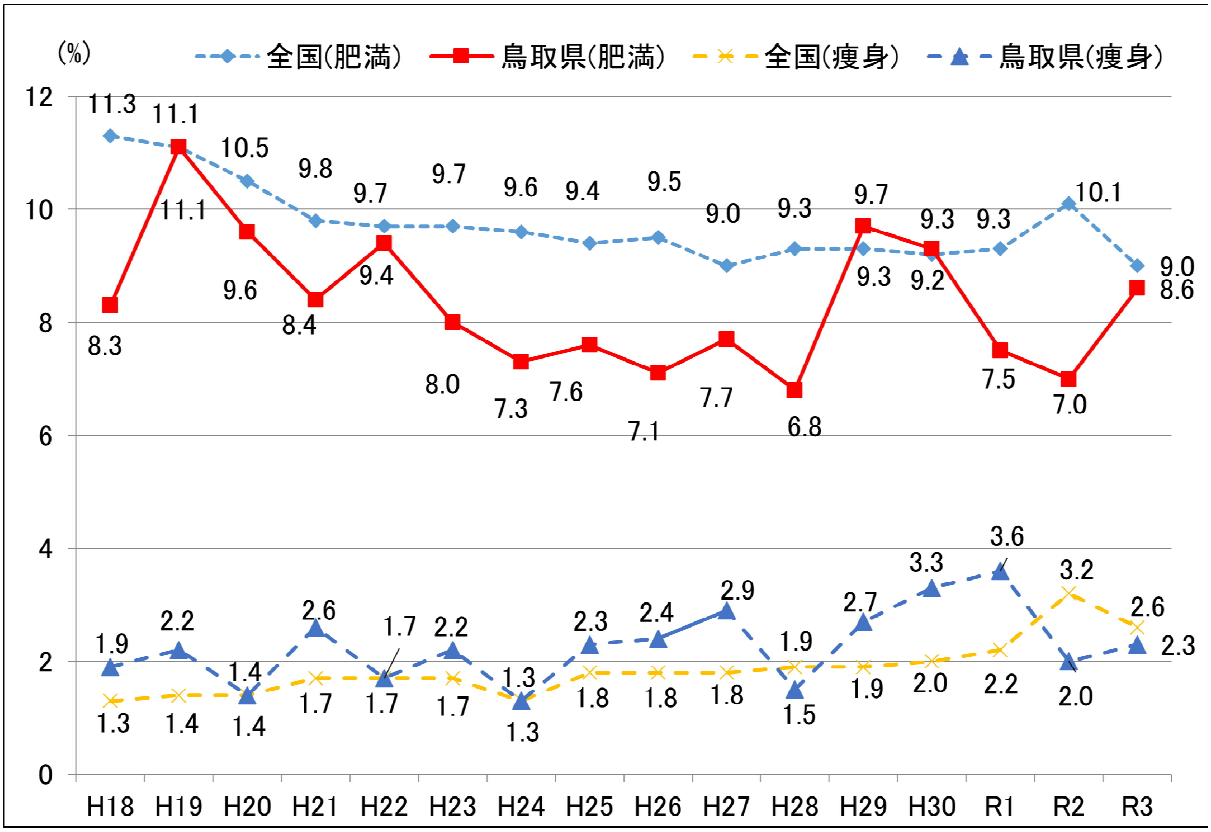

（出典：学校保健統計調査（文部科学省））

●中学３年生




（出典：学校保健統計調査（文部科学省））

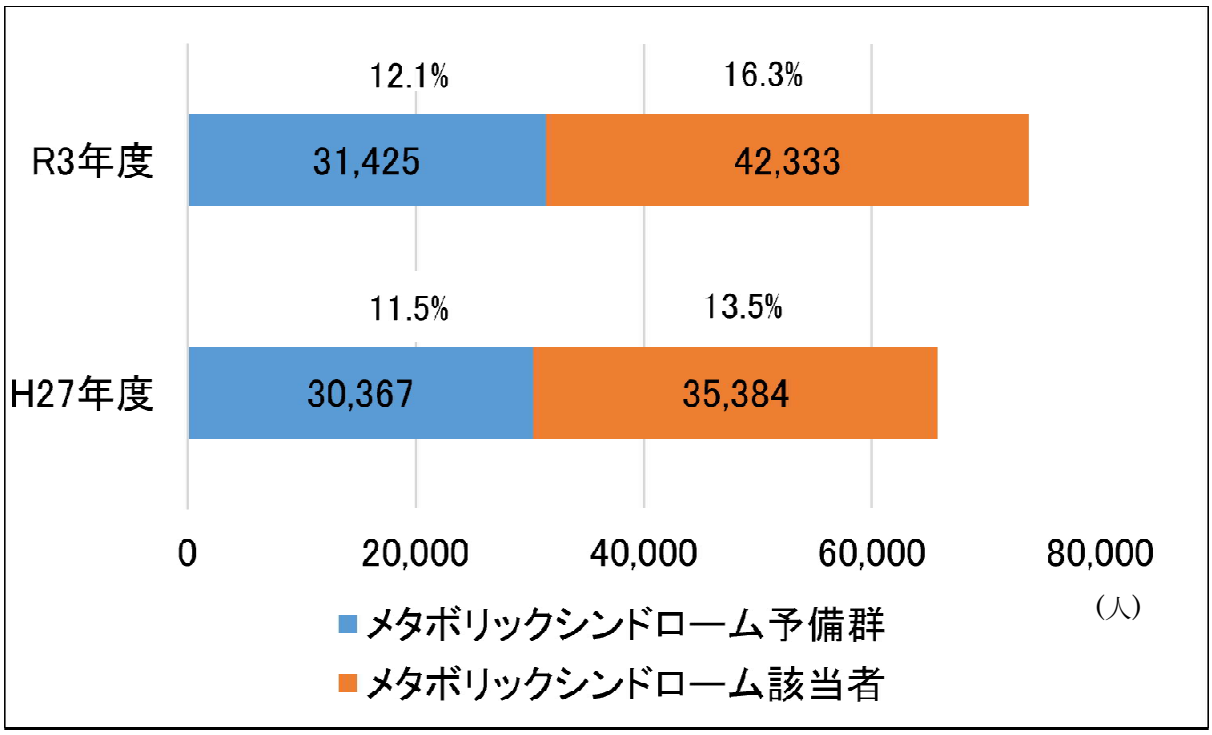
●高校３年生




（出典：学校保健統計調査（文部科学省））

オ　本県の特定健康診査受診者のうちメタボリックシンドロームの該当者及び予備群の推移

県内の特定健診受診者の情報から、メタボリックシンドロームの予備群及び該当者の割合は 28.4%となり、平成 28 年以降、少しずつ増加し続けています。
※ここでいう全保険者とは、市町村国保・医師国保・協会けんぽ・公立学校共済・警察共済・地方職員共済・鳥取銀行保険組合・市町村職員共済の合計。




（出典：鳥取県健康政策課調べ（平成 27 年度）、国保連合会調べ（令和３年度））

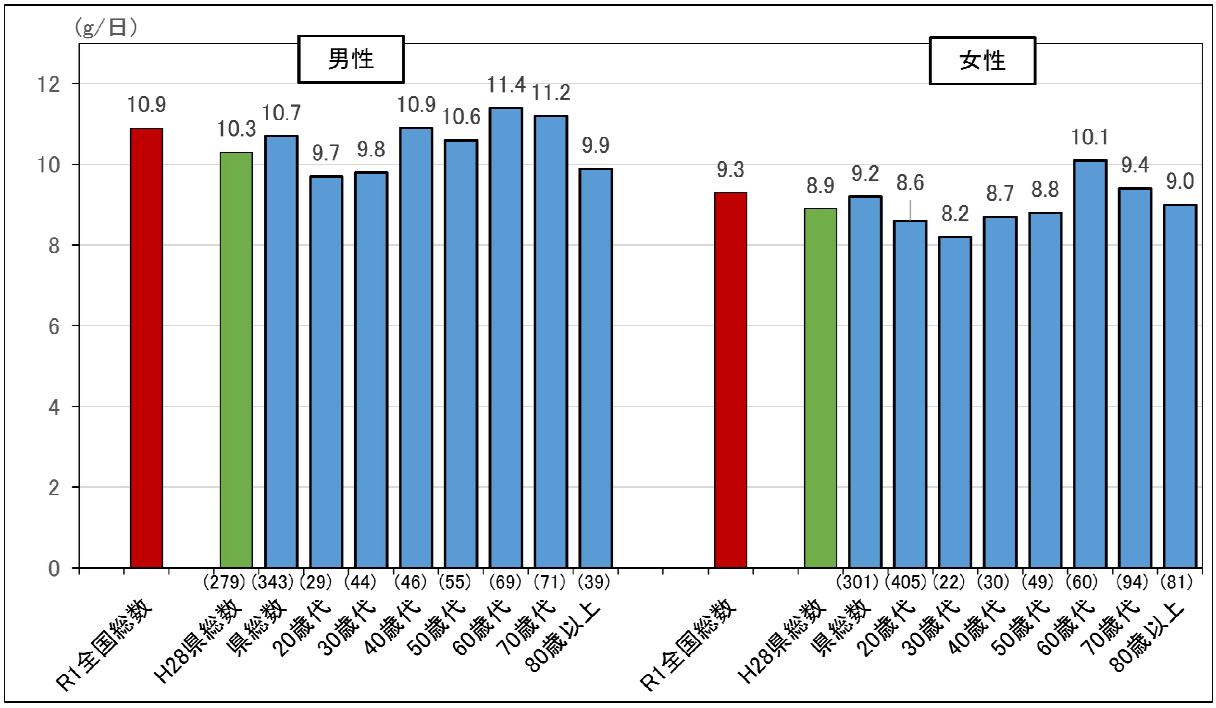
## ２　県民の生活習慣の現状

### （１）栄養・食生活の現状

#### ア　食塩摂取の状況

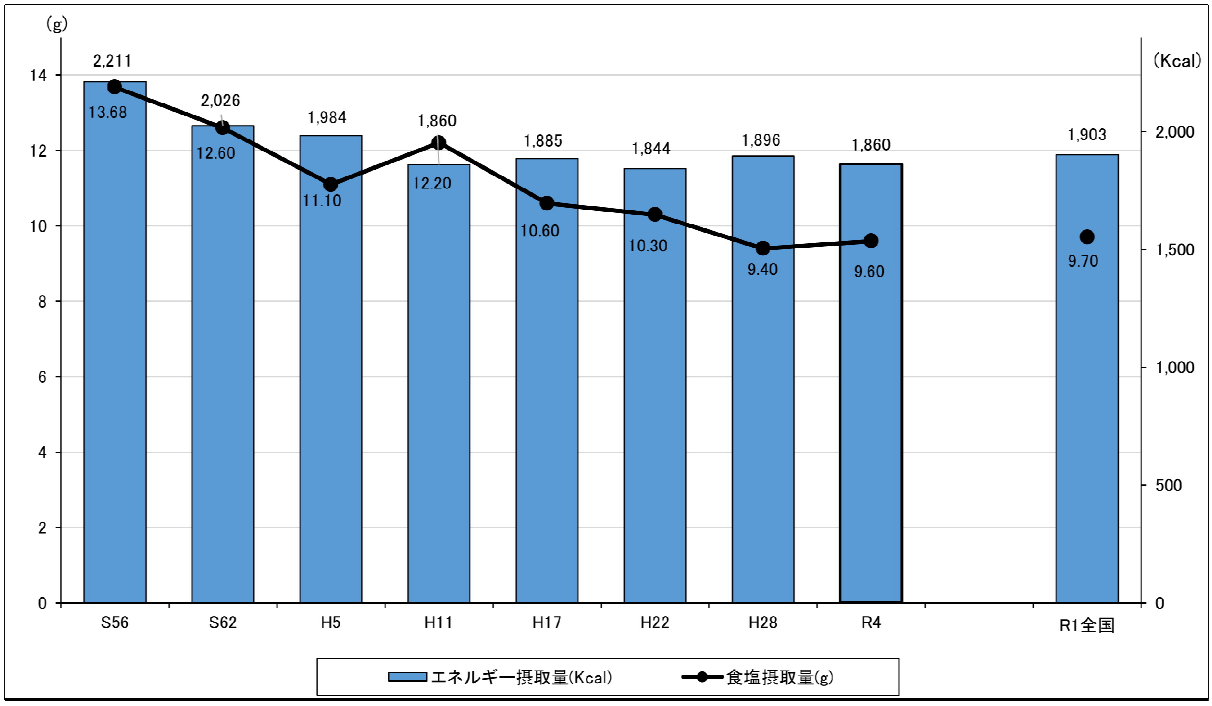
食塩摂取量は、男女とも、すべての年代で摂取量が目標の８ｇを超えています。
また、年次推移を見ると、エネルギー摂取量全体に占める食塩摂取量は年々減少傾向です。

（ア）年代別食塩摂取量（２０歳以上）




（出典：県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査）

（イ）食塩摂取量の年次推移（１歳以上）

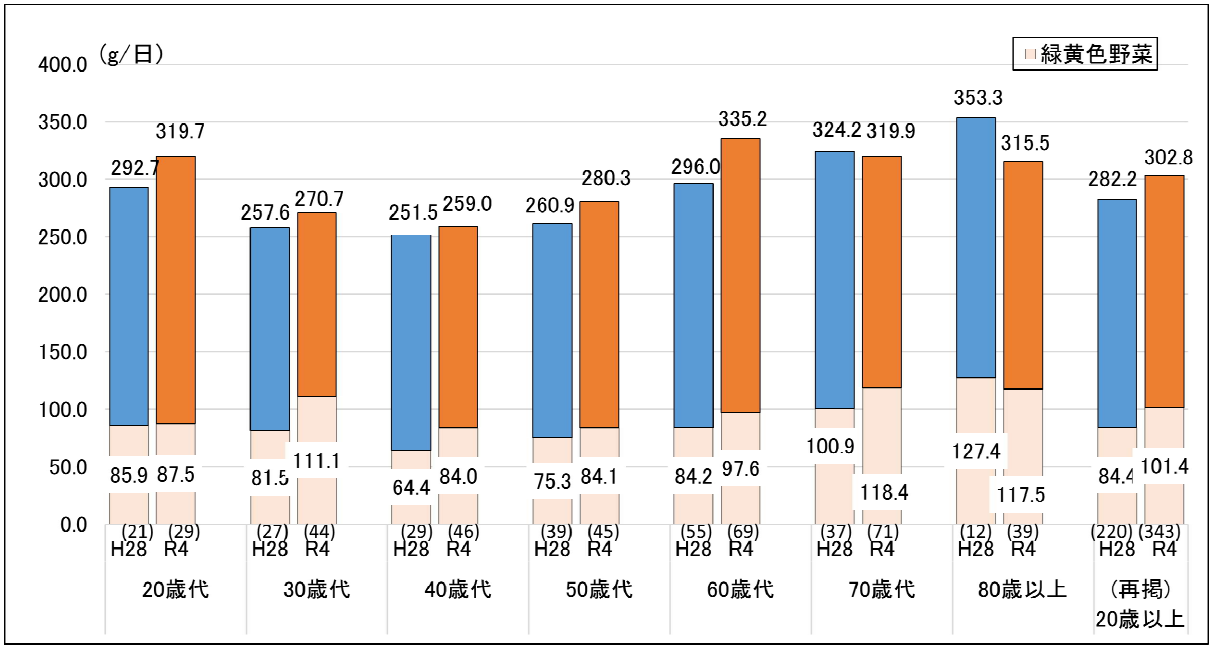



（出典：県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査）

## イ　野菜摂取の状況

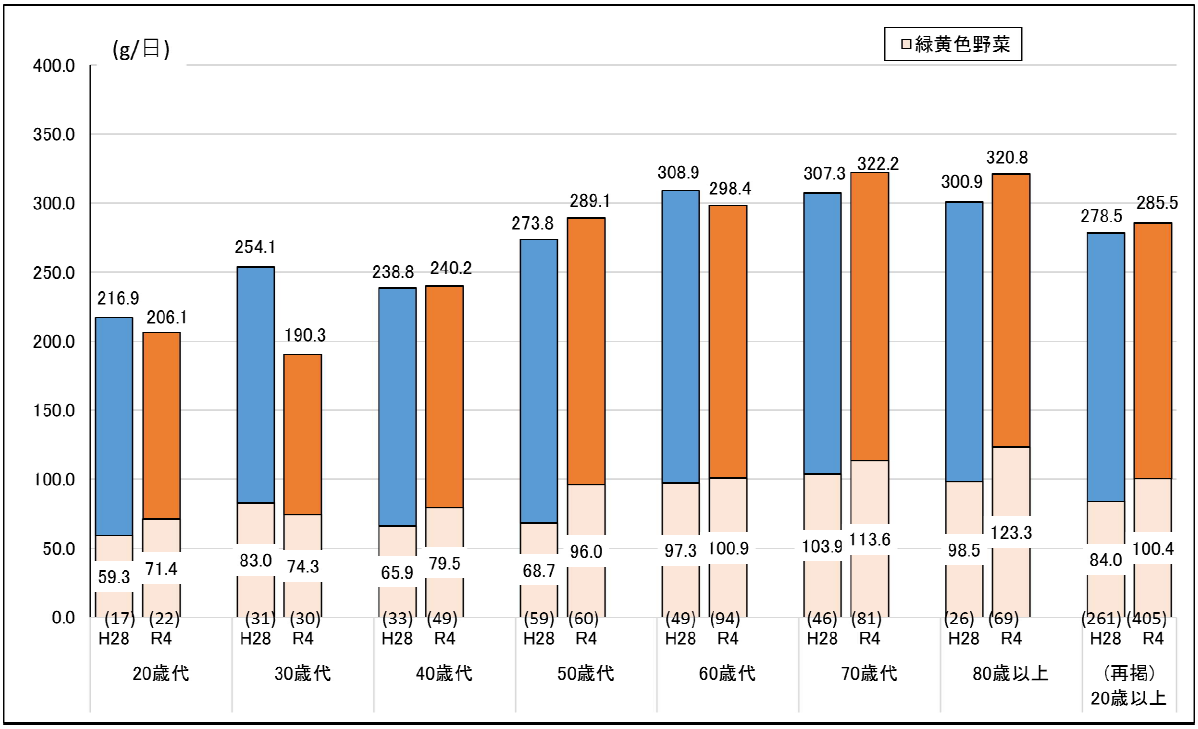
鳥取県民の野菜摂取量の平均値は、男性 302.8ｇ、女性 285.5ｇで、男性では 40 歳代、女性では 30 歳代で最も少なく、男性では 30～50 歳代、女性では 20～50 歳代が特に少ないという結果でした。

（ア）年代別野菜摂取量（２０歳以上男性）




（出典：県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査）

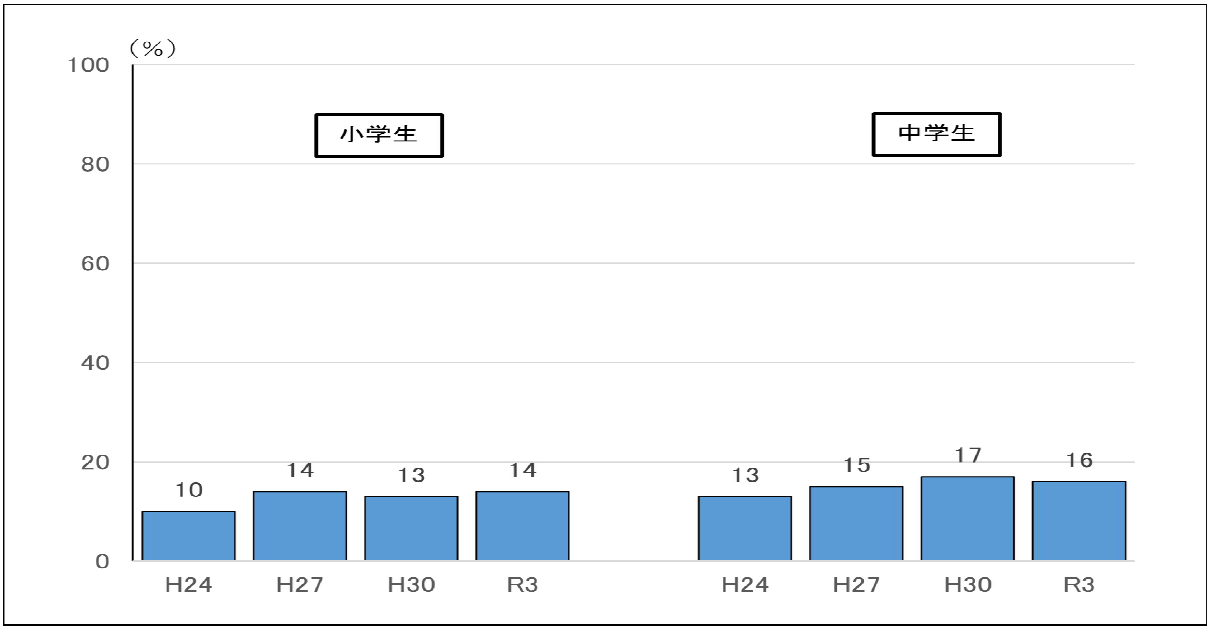
（イ）野菜摂取量の年次推移（２０歳以上女性）




（出典：県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査）

ウ　朝食

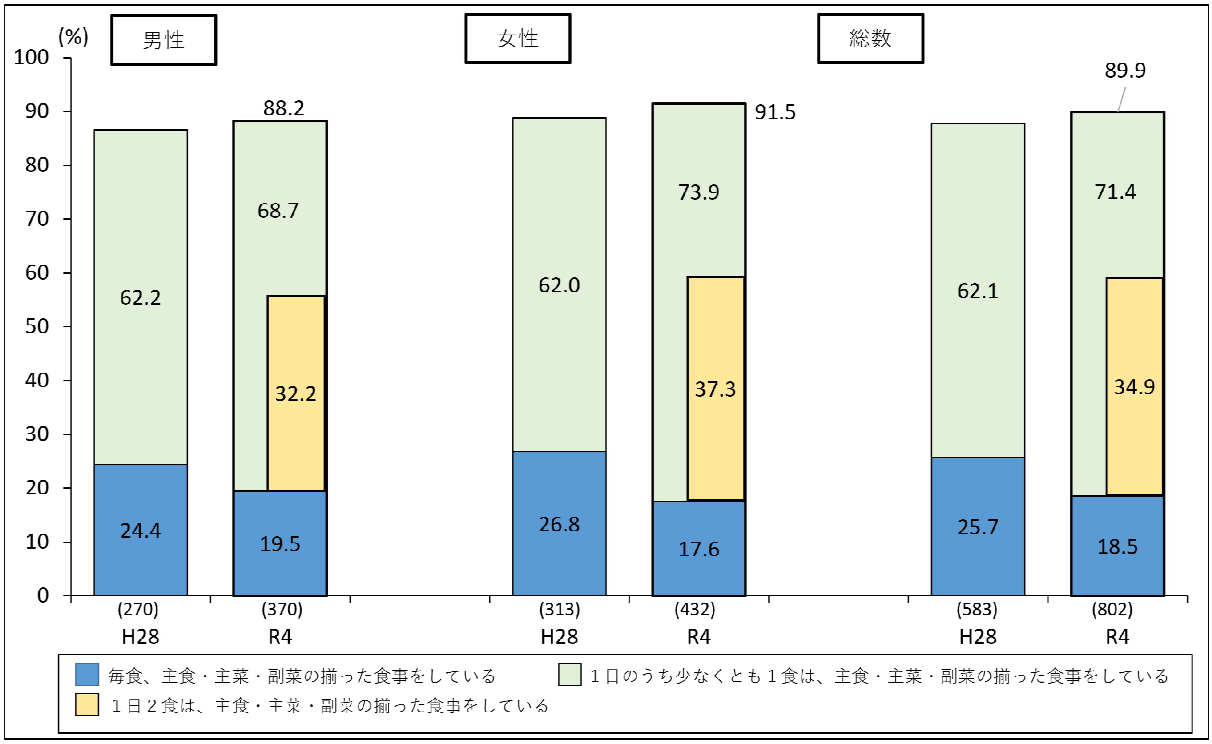
朝食を欠食する児童・生徒の割合は、平成２４年の調査以降、小学生・中学生ともに横ばいで推移している。




（出典：食事と生活についてのアンケート（鳥取県学校栄養士協議会））

エ　１日１回以上、主食・主菜・副菜の揃った食事をする県民の割合（２０歳以上）

朝食を欠食する児童・生徒の割合は、平成２４年の調査以降、小学生・中学生ともに横ばいで推移している。

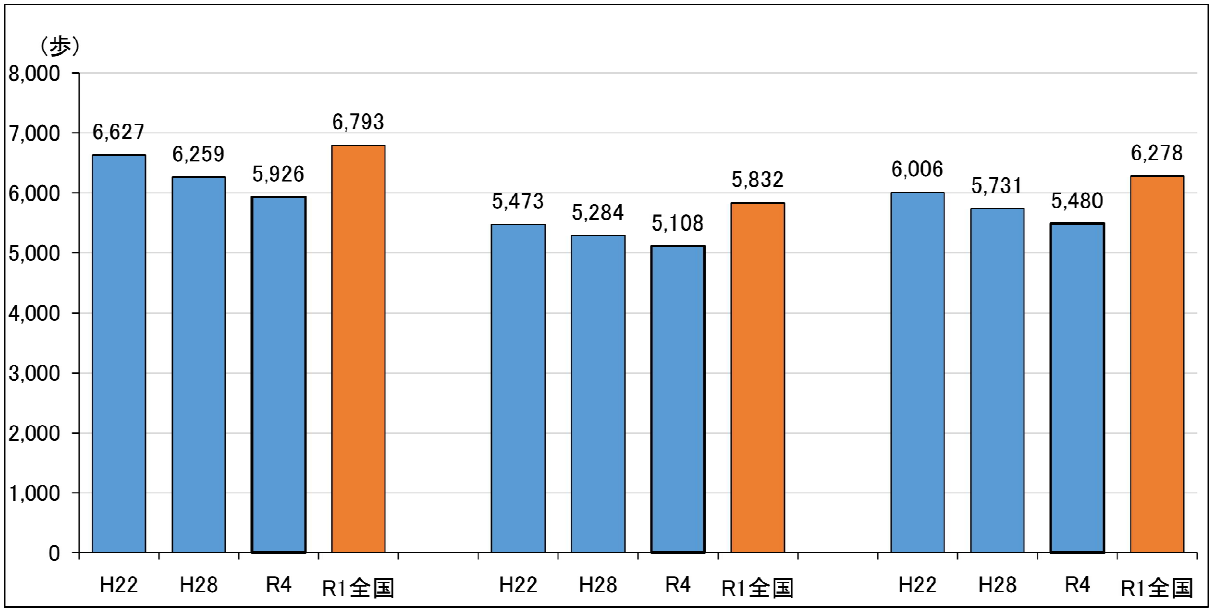



（出典：県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査）

## （２）身体活動・運動の現状

### ア　１日の歩行数（２０歳以上）

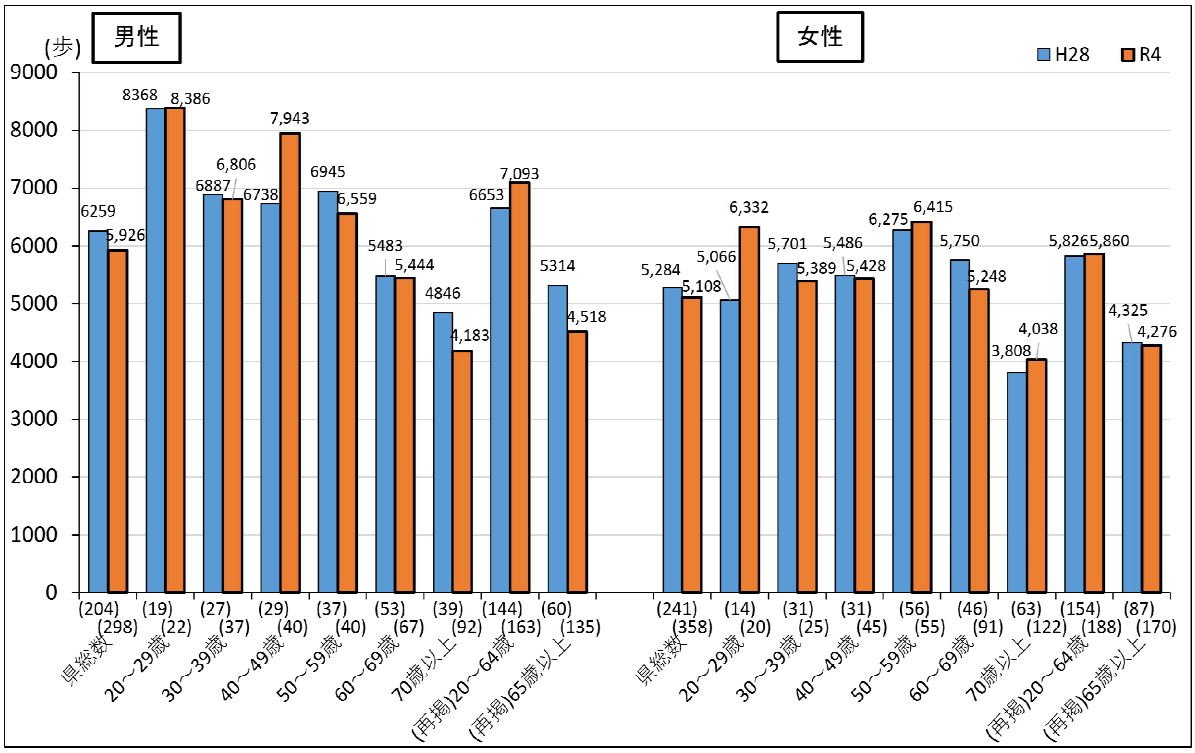
鳥取県民の１日の歩行数は、平成２８年の調査に比べて男女とも減少しています。増加しています。また。全国平均と比べて少なく、鳥取県が目標としている成人男性 8000 歩、成人女性 7000 歩とは大きな開きがあります。




（出典：県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査）

### イ　性と年齢別の歩行数（２０歳以上）

性と年齢別の歩行数については、男性は 20 歳代が一番多く、県の目標 8,000 歩を達成した。一方、男性のその他の年代および女性のすべての年代において、目標歩数に達しなかった。



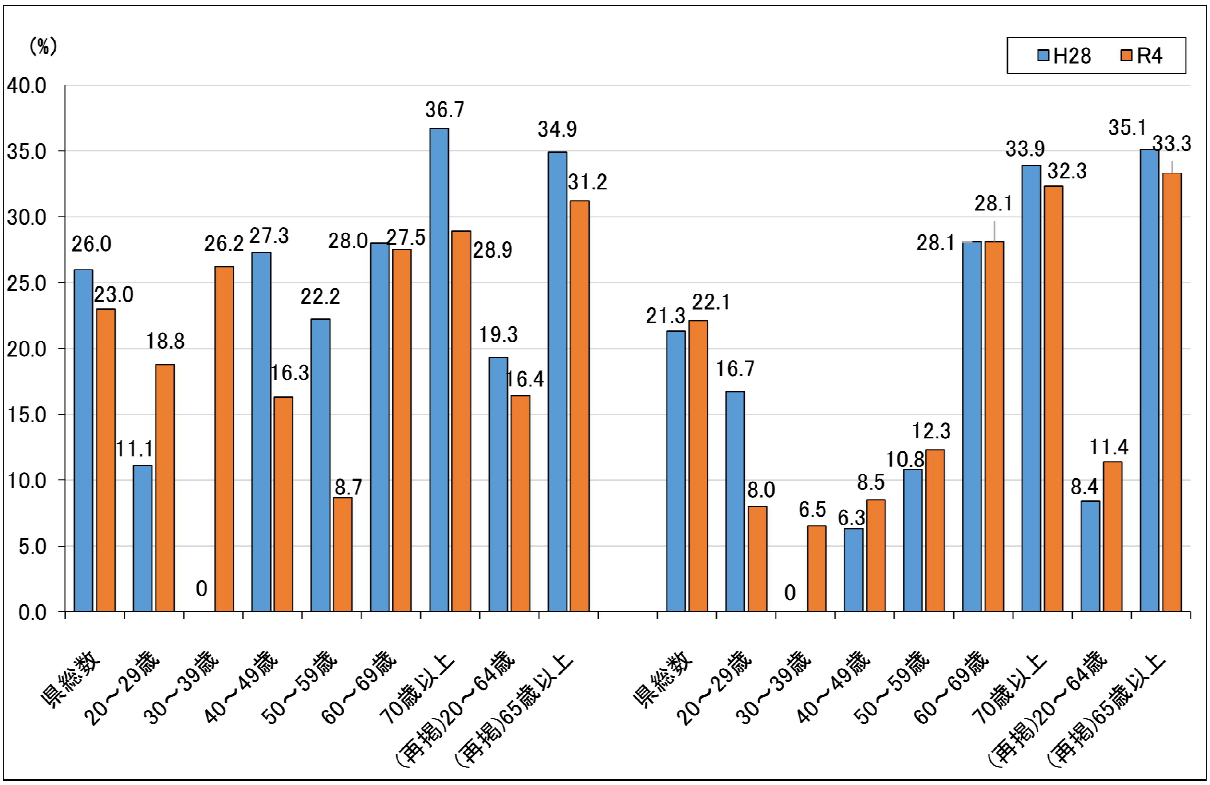

（出典：県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査）



ココカラ げんき 鳥取県

ウ　運動習慣のある者の割合（２０歳以上）

鳥取県民の運動習慣のある者の割合は、男性女性ともに、平成 22 年調査に比べて減少しており、鳥取県が目標としている 30%には届かず、全国平均を大きく下回っています。



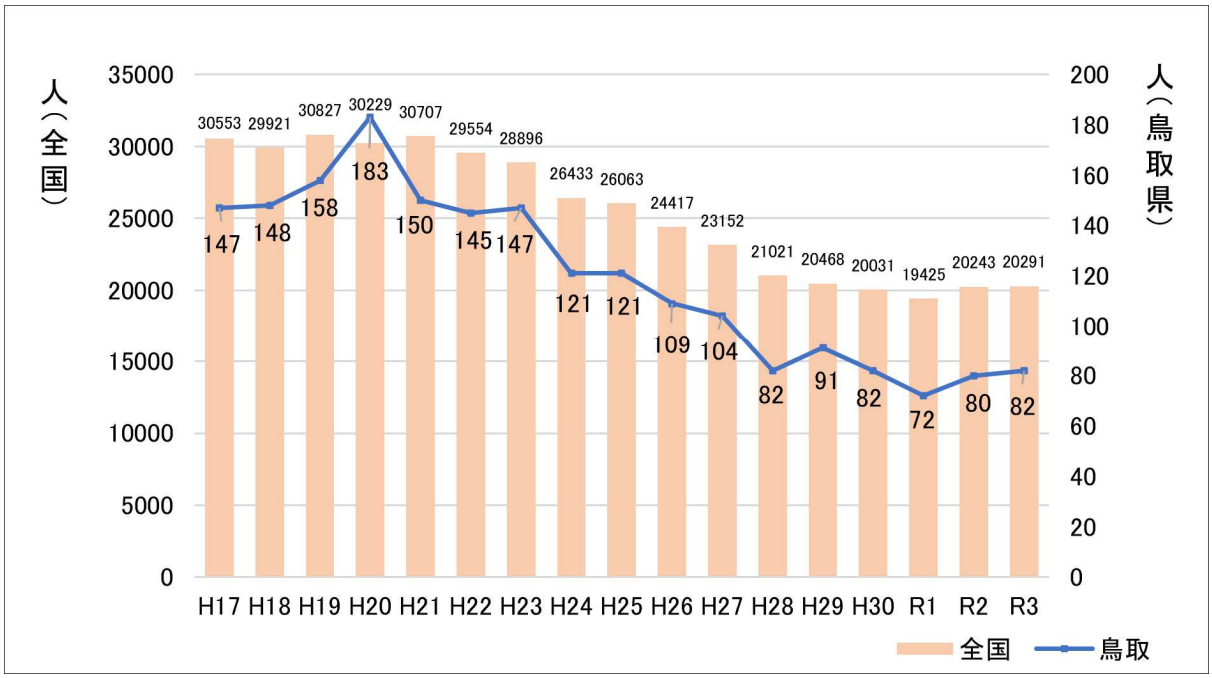

（出典：県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査）

（３）休養・こころの健康の現状

ア　本県の自死の状況

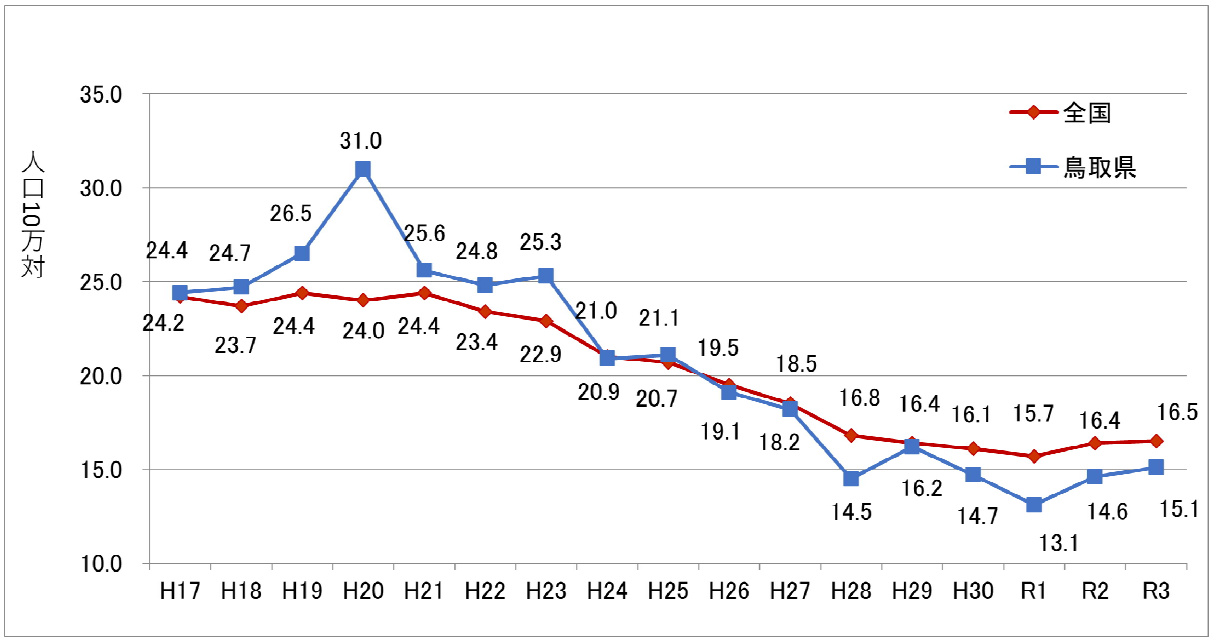
本県の自死者数は、平成 17 年以降、約 150 人という高い状態で推移し、平成 20 年には 183 人まで増加しました。その後、減少傾向でありましたが、新型コロナウイルス感染症が流行した令和 2 年以降は増加しています。

（ア）全国と本県の自死者数の推移




（出典：厚生労働省「人口動態統計」）

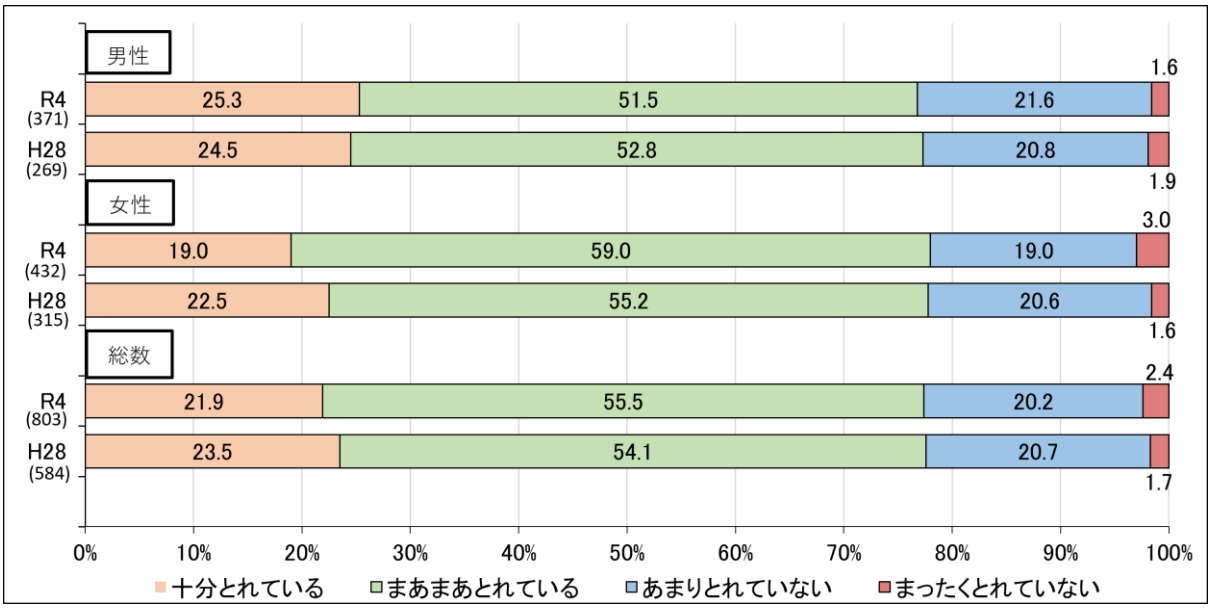
（イ）全国と本県の自殺者死亡率（人口１０万対）の推移




（出典：厚生労働省「人口動態統計」）

イ　睡眠により休養がとれていない者の割合

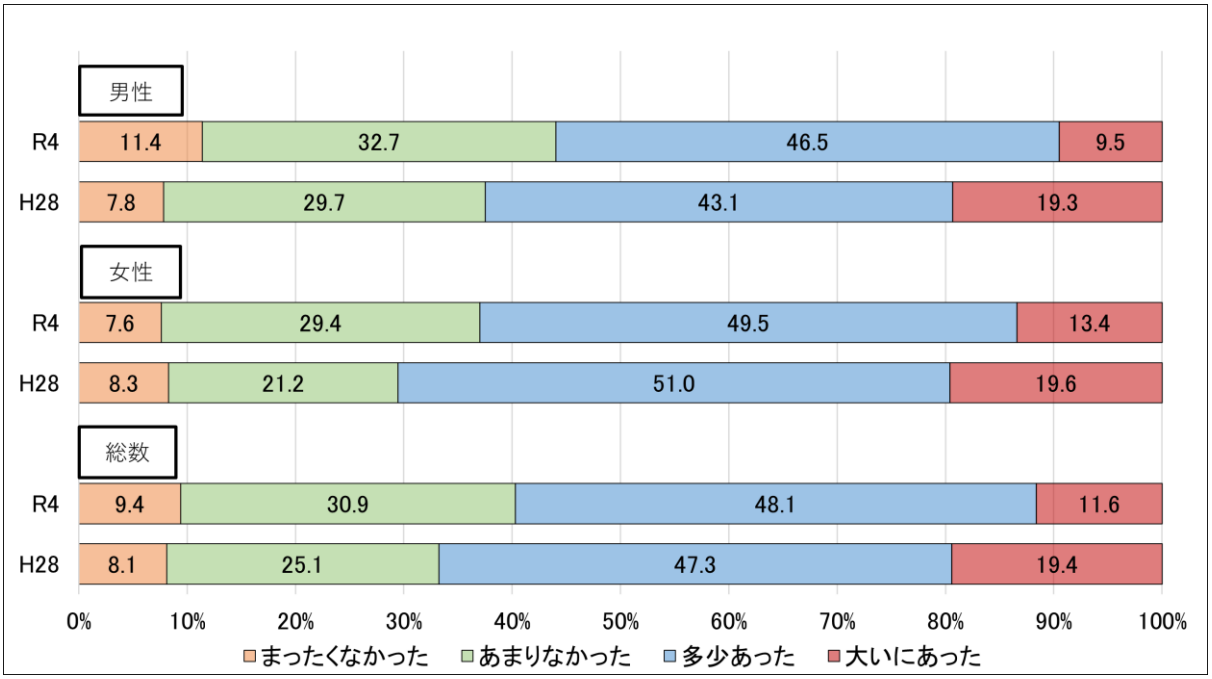
睡眠により休養がとれていない者の割合は、おおむね 20%前後で推移しています。




（出典：県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査）

ウ　この１ヶ月にストレスを感じた者の割合

ストレスを感じた者の割合は、平成 28 年度と比べ、令和 4 年度には男性は 9.5%、女性は 13.4%と、特に男性で大きく減少しました。

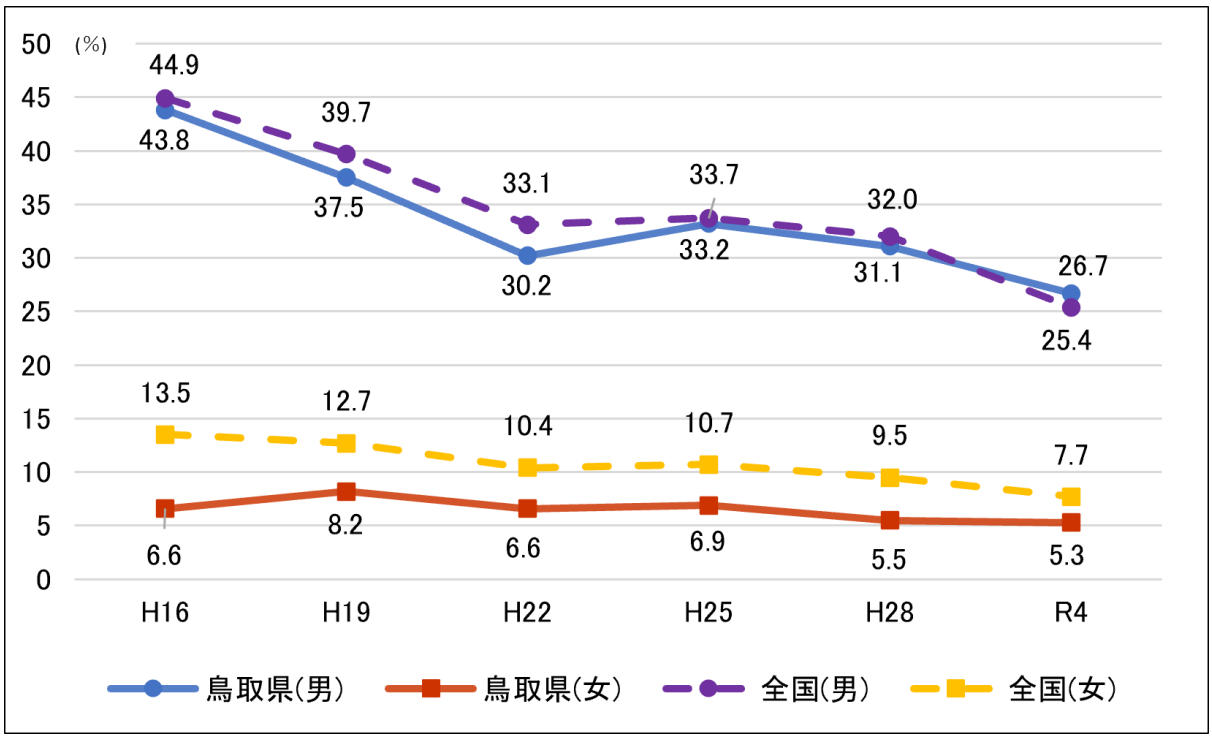



（出典：県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査）

（４）喫煙の現状

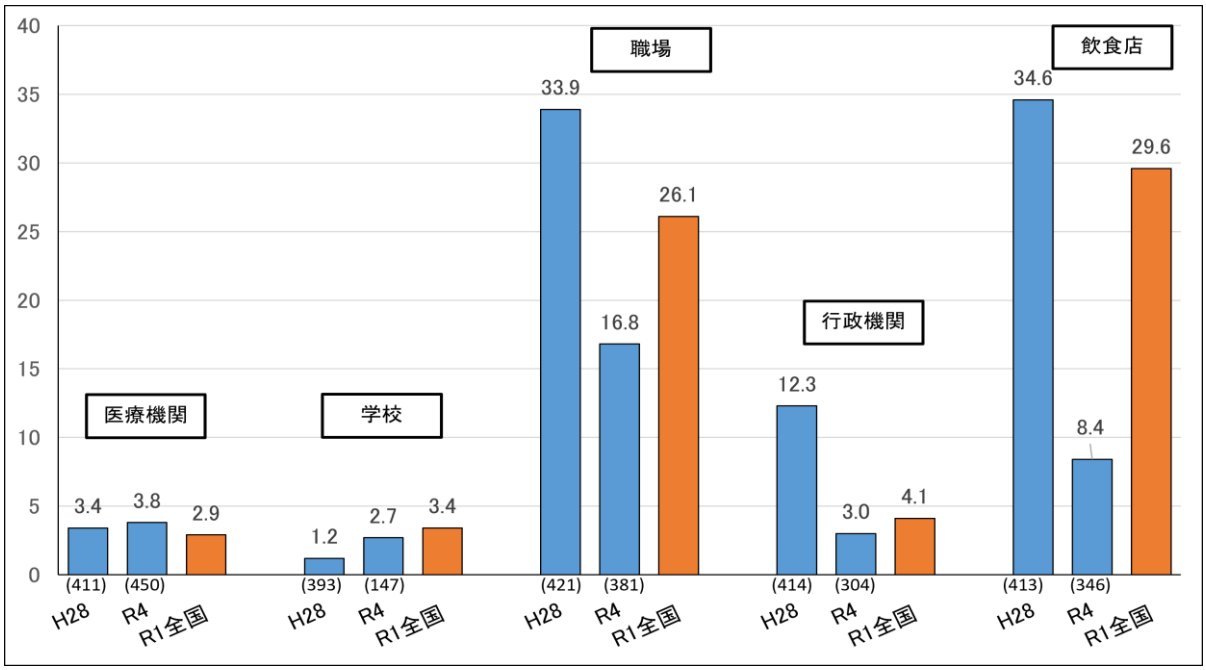
ア　全国と本県の喫煙率の推移（２０歳以上）

鳥取県、全国とも喫煙率は年々減少傾向にあり、令和４年において、鳥取県男性の喫煙率は、26.7%、鳥取県女性の喫煙率は、5.3%となっています。
また、「健康増進法」の一部改正（R2）以降、学校、病院、行政機関等では敷地内禁煙、その他施設では原則屋内禁煙となっていますが、令和４年度調査時点で、当該施設での受動喫煙がなくなっていない状況であることが分かりました。




（出典：国民生活基礎調査）

イ　本県の受動喫煙の状況

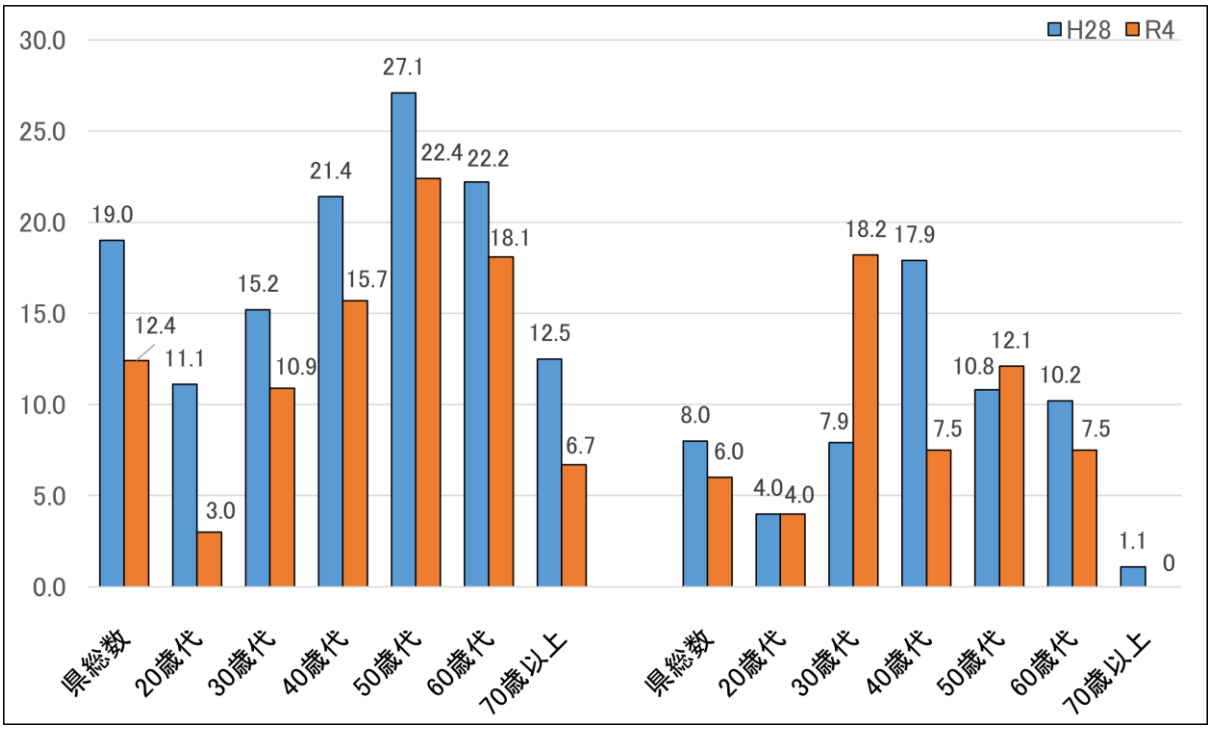



（出典：県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査）

（５）飲酒の現状

ア　本県の生活習慣病のリスクを高める量を飲酒する者の割合（２０歳以上）

鳥取県の生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をする者の割合は、男性はすべての年代で平成 28 年度よりも減少していますが、30 代女性では平成 28 年の 7.9%から令和４年 18.2%と急増しています。




（出典：県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査）

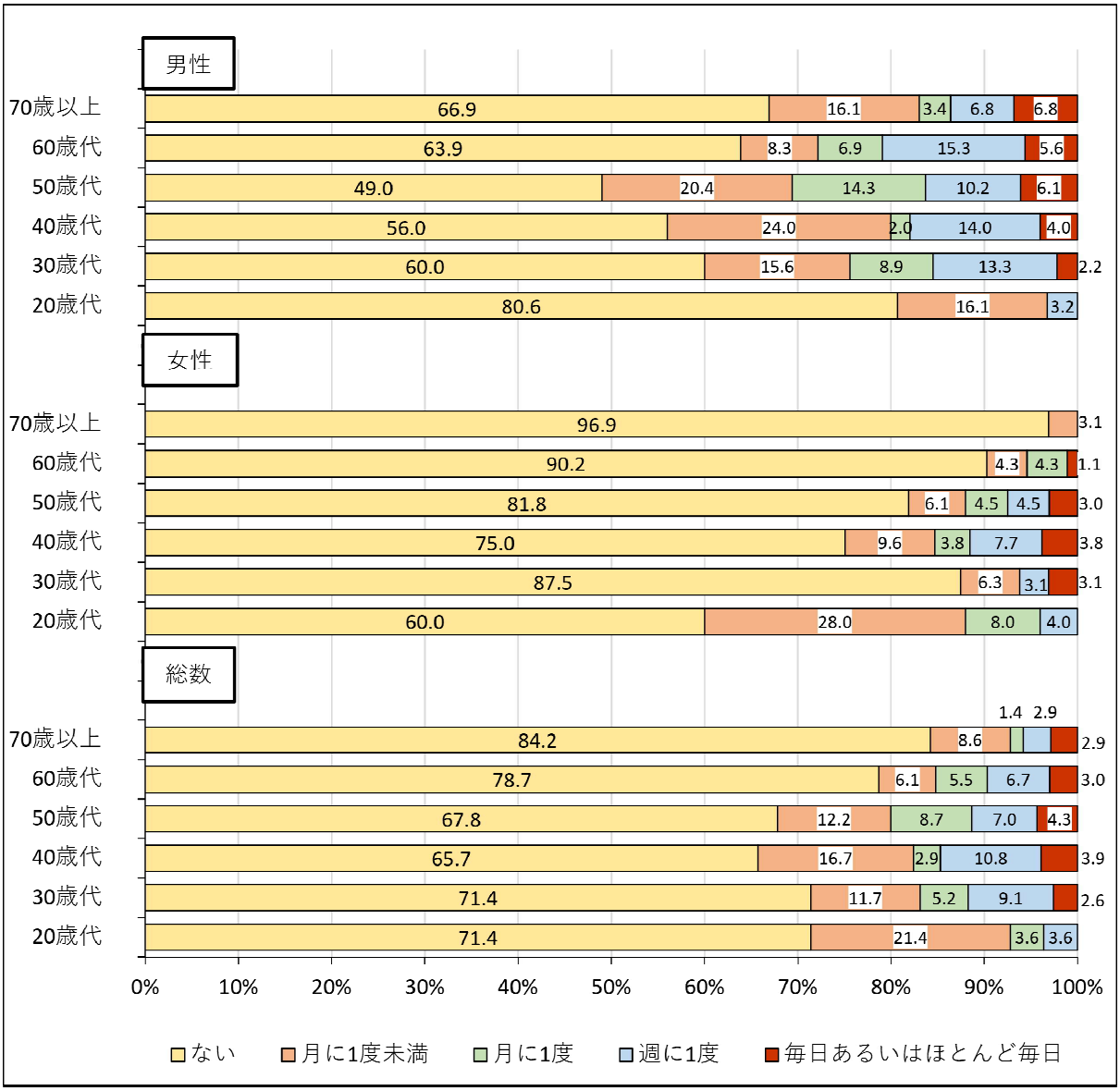
※生活習慣リスクを高める量を飲酒している者とは、１日当たりの純アルコール摂取量が男性 40ｇ以上、女性 20ｇ以上の者とし、以下の方法で算出。

①男性：「毎日×2 合以上」＋「週 5～6 日×2 合以上」＋「週 3～4 日×3 合以上」＋「週 1～2 日×5 合以上」＋「月 1～3 日×5 合以上」

②女性：「毎日×1 合以上」＋「週 5～6 日×1 合以上」＋「週 3～4 日×1 合以上」＋「週 1～2 日×3 合以上」＋「月 1～3 日×5 合以上」

### イ　本県の一時多量飲酒者の状況

一次多量飲酒者の割合は、男性では 50 歳代が最も高く 30.6%、女性では 40 歳代が最も高く 15.3%という結果でした。



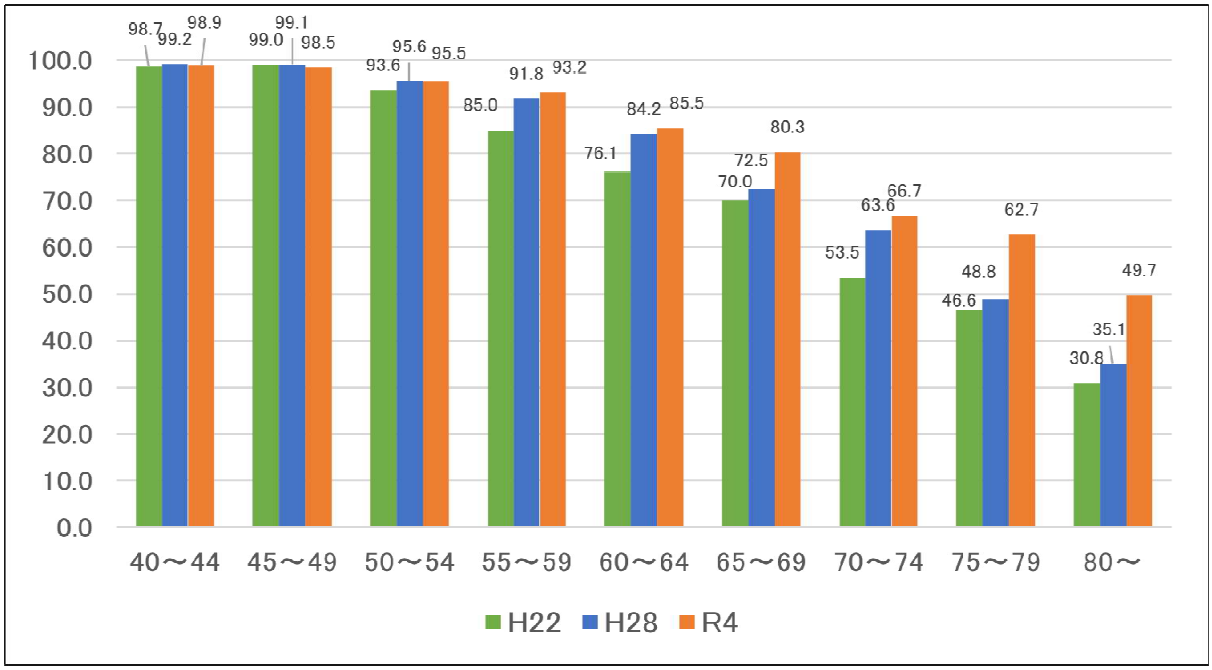

（出典：県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査）

※一時多量飲酒者とは、過去 30 日間で一度に純アルコール量 60ｇ以上の飲酒を行った者。

（６）歯・口腔の健康の現状

ア　本県の２０歯以上自分の歯を有する者の割合

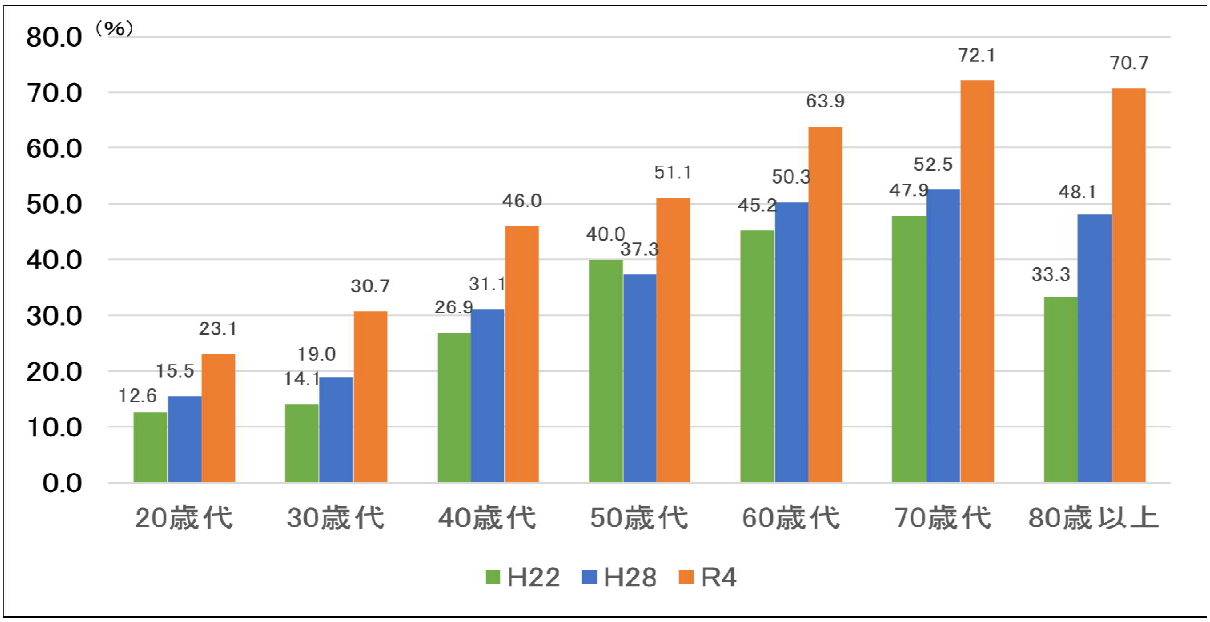
２０歯以上自分の歯を有する者の割合は、いずれの年代においても概ね増加傾向にあります。特に、高齢者においては、顕著に増加してます。




（出典：県民歯科疾患実態調査）

イ　本県の歯周炎のある者の割合（年代別）

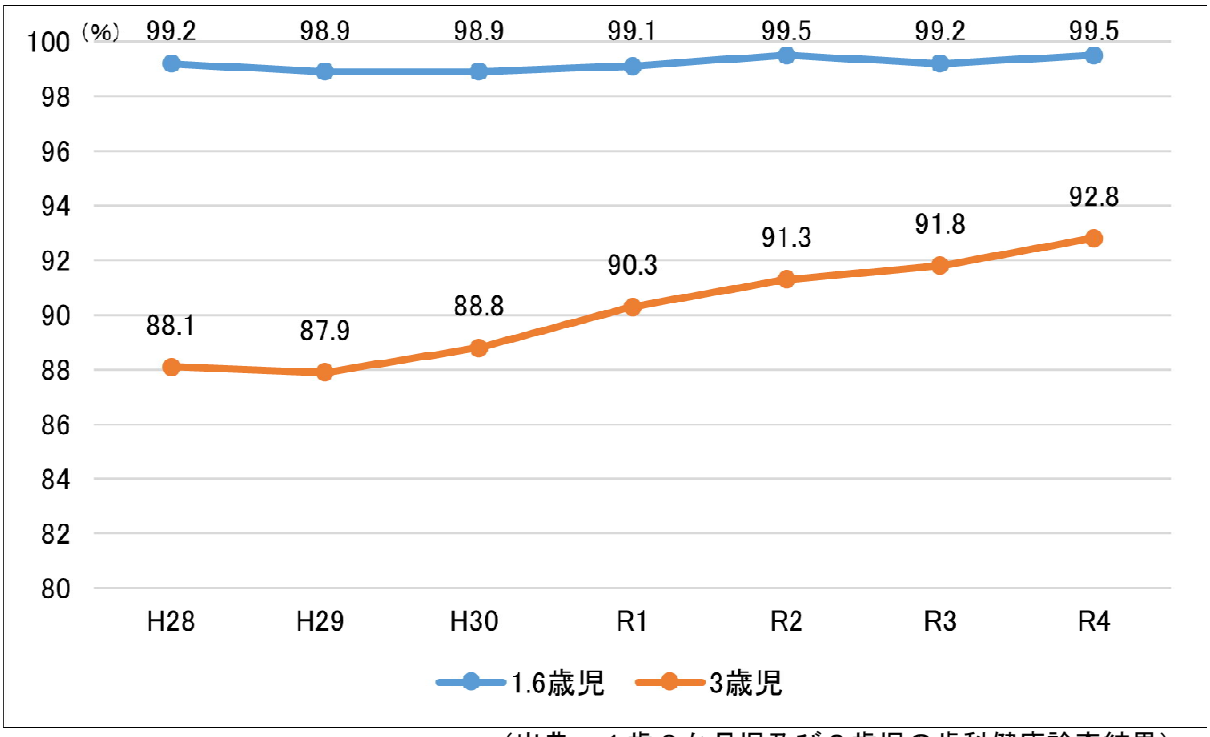
歯周炎に罹っている者（4mm 以上の歯周ポケットを有する者）の割合は、年代を追うごとに増加しています。過去調査と比較してすべての年代で増加傾向にあり、特に 80 歳以上での増加が顕著です。




（出典：県民歯科疾患実態調査）

ウ　本県のむし歯のない子どもの割合

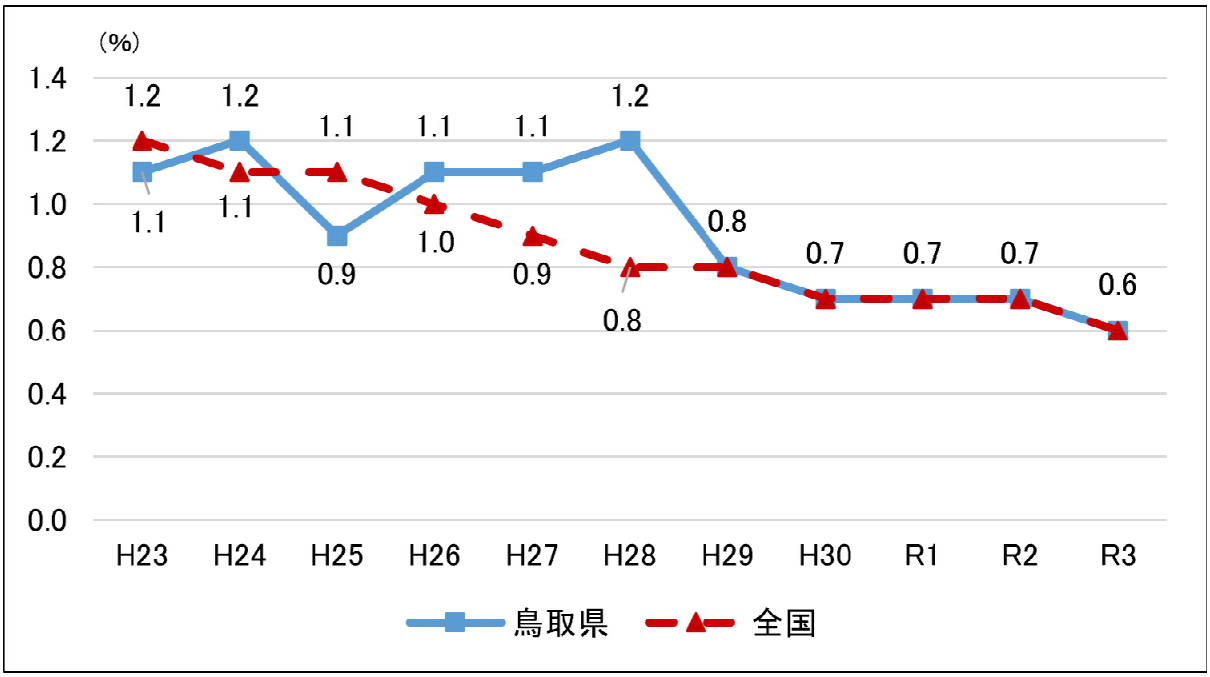
１歳６か月児及び３歳児の歯科健診の結果から、むし歯のない子どもの割合を年次推移で見ると年々増加傾向にあります。




（出典：１歳６か月児及び３歳児の歯科健康診査結果）

エ　本県の１２歳児の平均むし歯数

12 歳児の１人平均むし歯数は、鳥取県は全国同様、概ね減少傾向で推移していますが、近年ではほぼ横ばいの状況です。



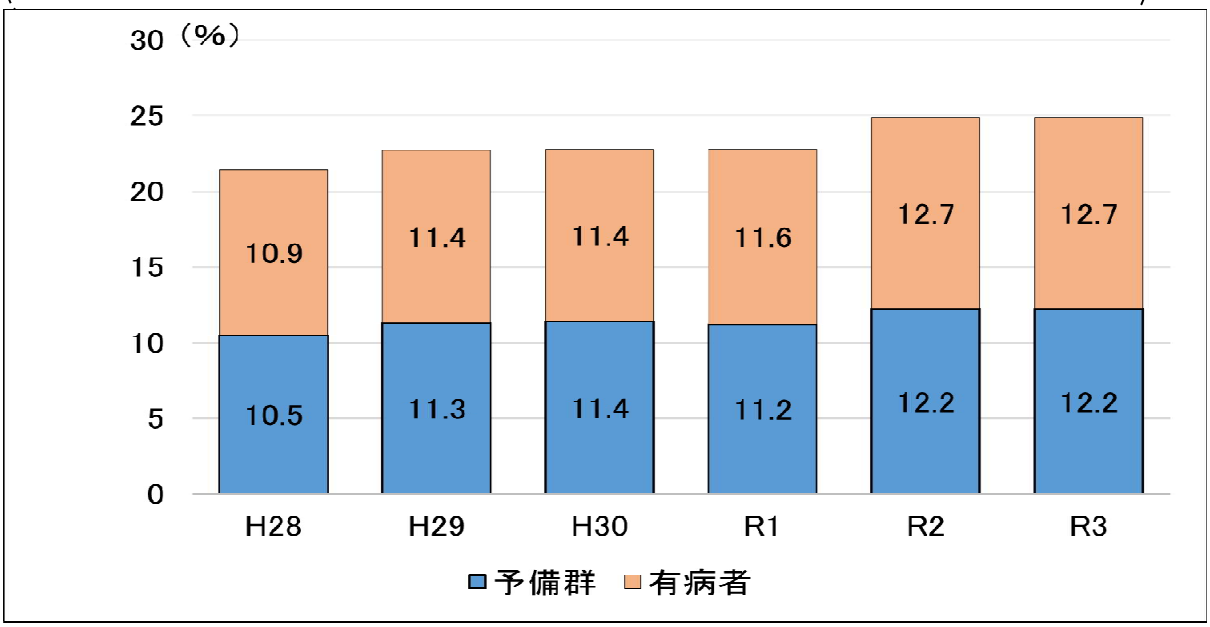

（出典：学校保健統計調査）

## ３　県民の生活習慣病の現状

### （１）糖尿病の現状

#### ア　本県の糖尿病の予備群及び有病者の推移

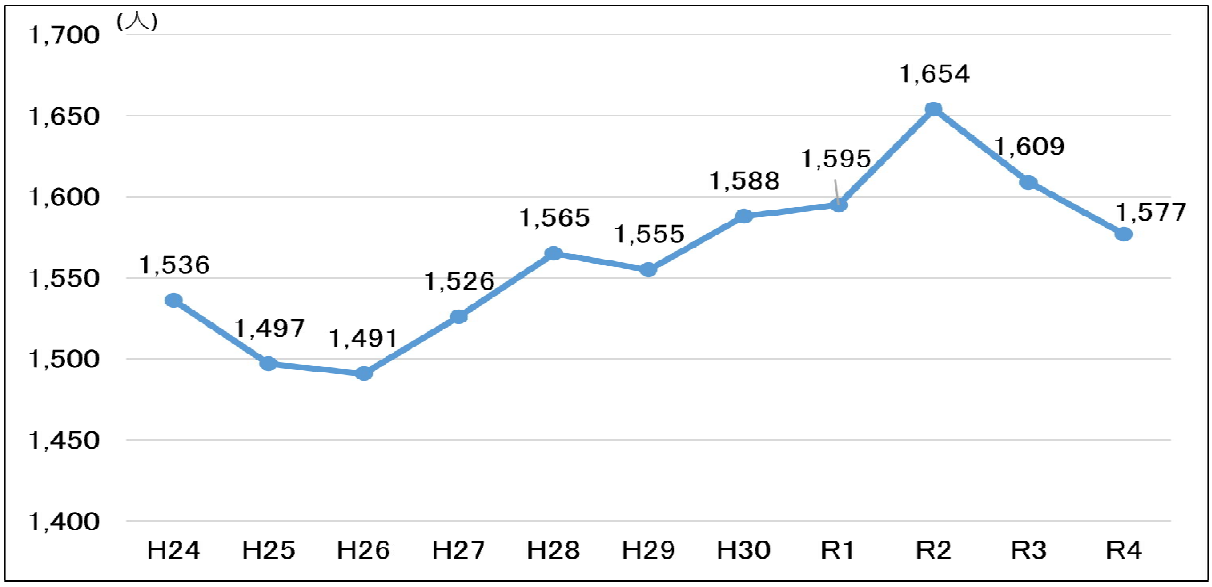
市町村が実施した特定健診の受診者の情報から、糖尿病の予備群及び有病者の数を推定すると合わせて 53,342 人、その割合は 20.2%となり、平成 24 年度以降横ばい状態にあります。




（出典：市町村国保における特定健康診査実績）

#### イ　本県の人工透析患者数の推移

平成２７年から令和２年にかけて県内の人工透析者数は緩やかな増加傾向でしたが、令和２年以降は若干減少に転じています。

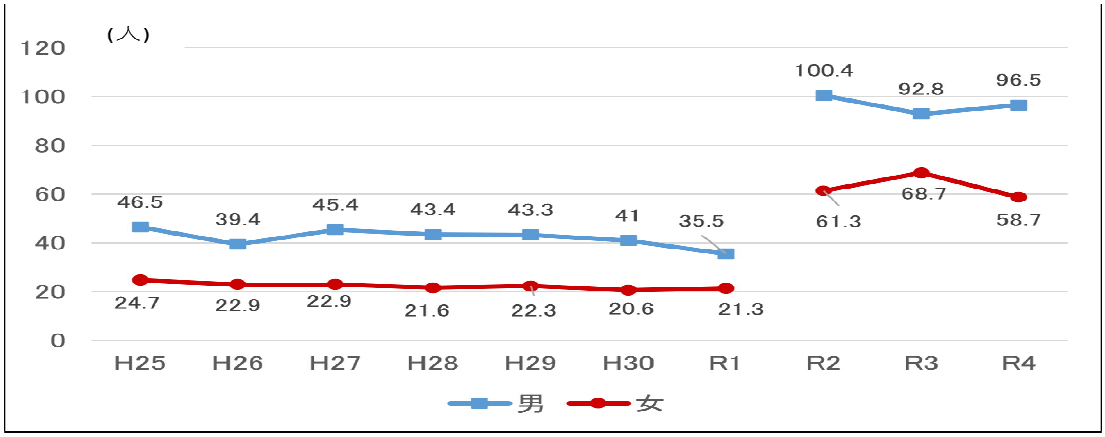



（出典：財団法人鳥取県臓器・アイバンク調べ）

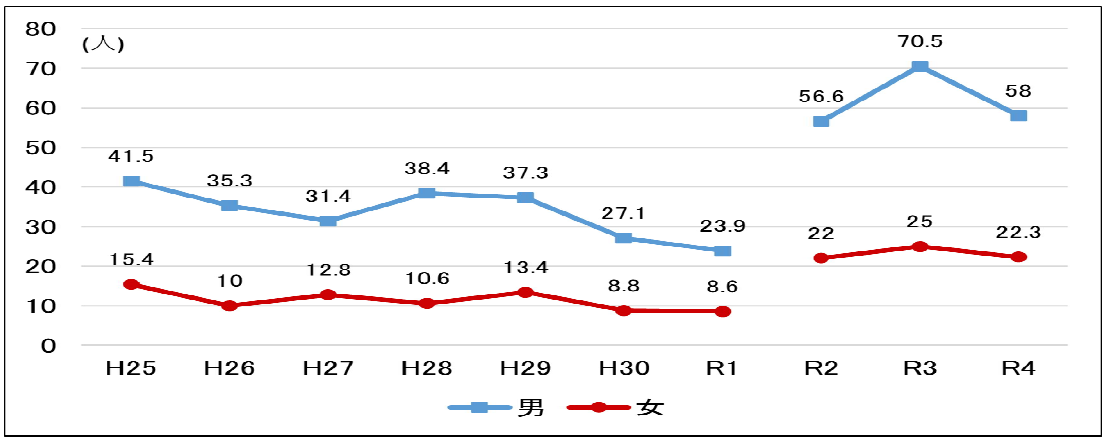
（２）循環器病の現状

県内の脳血管疾患の年齢調整死亡率は、女性と比べ男性が高い状況が続いています。また、県内の虚血性心疾患の年齢調整死亡率は、女性と比べ男性が高い状況が続いており、脳血管疾患、虚血性心疾患ともに男性が高く、近年は横ばいで推移しています。

ア　本県の脳血管疾患の年齢調整死亡率の推移（人口１０万対）

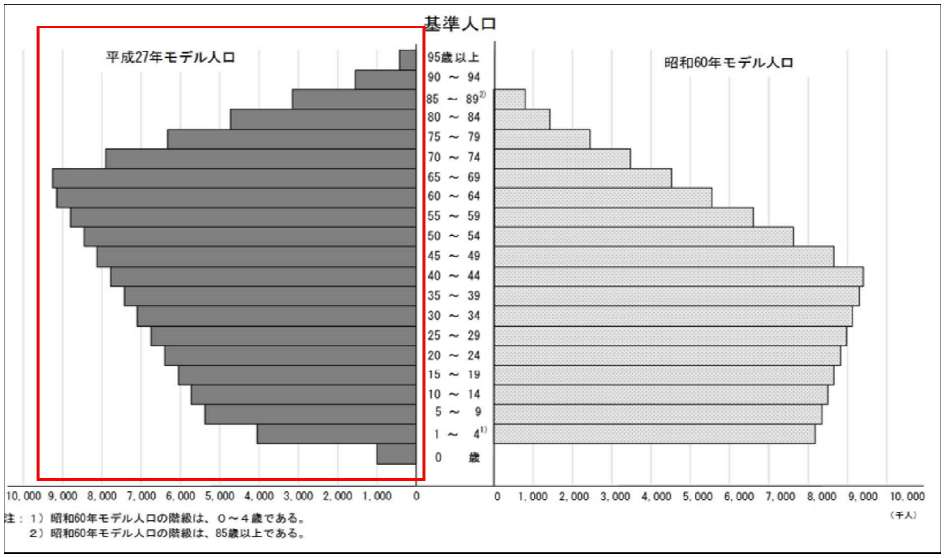



イ　本県の虚血性心疾患の年齢調整死亡率の推移（人口１０万対）




（出典：厚生労働省「人口動態統計」）

※厚生労働省の人口動態統計における年齢調整死亡率の算出にあたっては、平成２年から昭和６０年モデル人口を使用していましたが、令和２年から、高齢化を反映した新しい基準人口（平成２７年モデル人口）を使用しています。そのため、厚生労働省公表の年齢調整死亡率は、令和２年以前と、それ以降では単純比較が出来ません。（以下の図は、厚生労働省ホームページより抜粋）



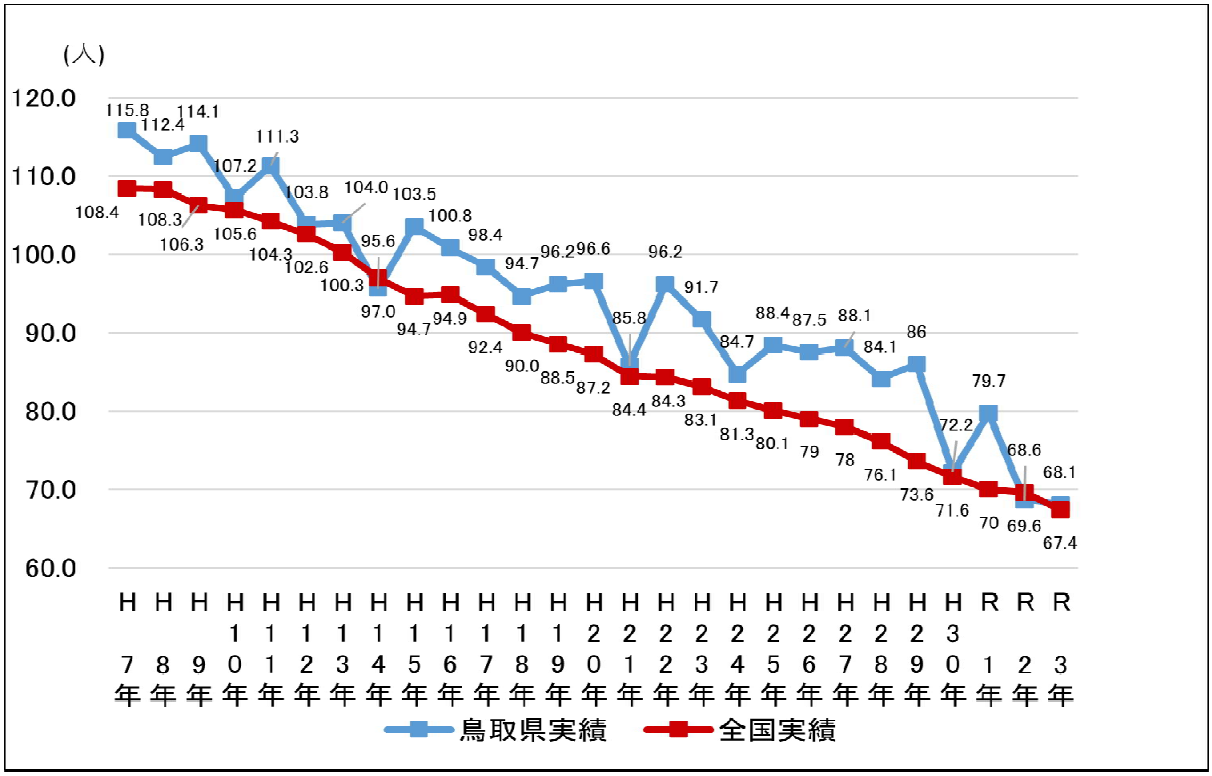



取り戻そう"バランスのよい食事"と"適度な運動"
ココカラげんき
鳥取県

（３）がんの現状

ア　７５歳未満がん年齢調整死亡率（人口１０万対）

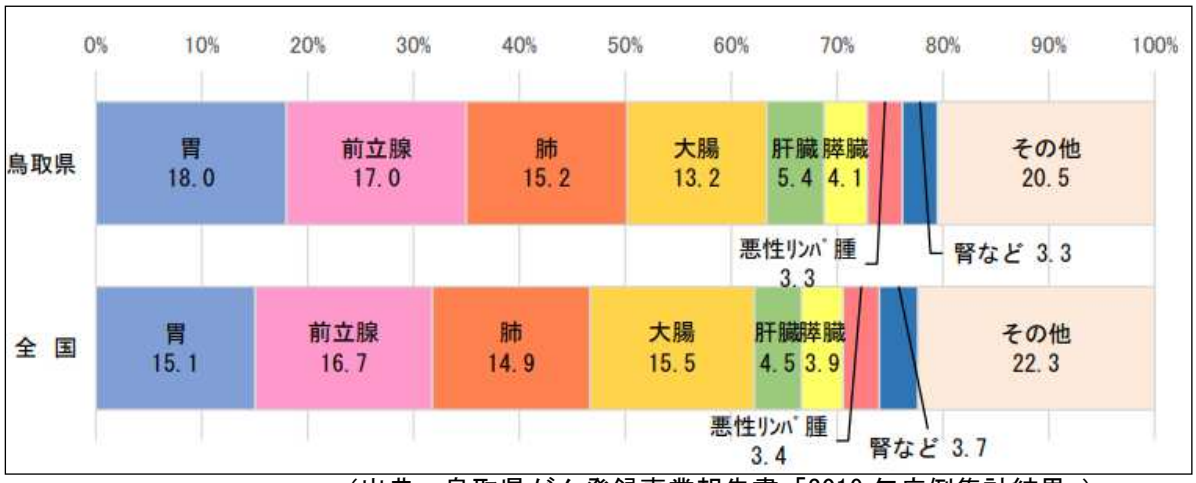
本県の７５歳未満がん年齢調整死亡率（人口１０万対）は、年々減少傾向にあるものの、全国平均より高く（悪く）推移しています。




イ　部位別がん罹患率の状況（男女）

がんの種類別に見た罹患割合は、男性では、「胃がん」が最も高く、次いで「前立腺がん」、「肺がん」の順となっています。
女性では、全国と同様、「乳がん」が最も高く、次いで「大腸がん」、「胃がん」の順となっています。

（ア）鳥取県における部位別がん罹患率（男性　2019）




（出典：鳥取県がん登録事業報告書「2019 年症例集計結果」）

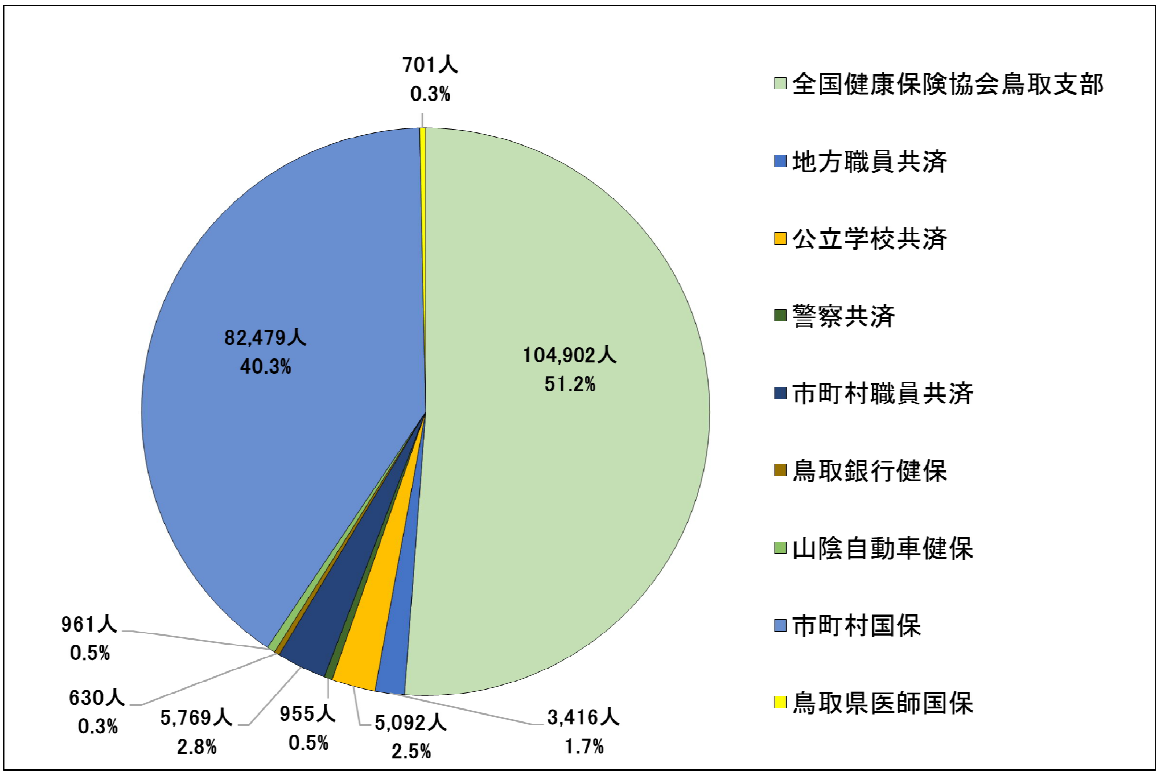
（イ）鳥取県における部位別がん罹患率（女性　2019）

（出典：鳥取県がん登録事業報告書「2019 年症例集計結果」）

## ４　本県の特定健診の受診状況

### ア　県内各保険者の特定健診対象者数の構成状況（40～74 歳）

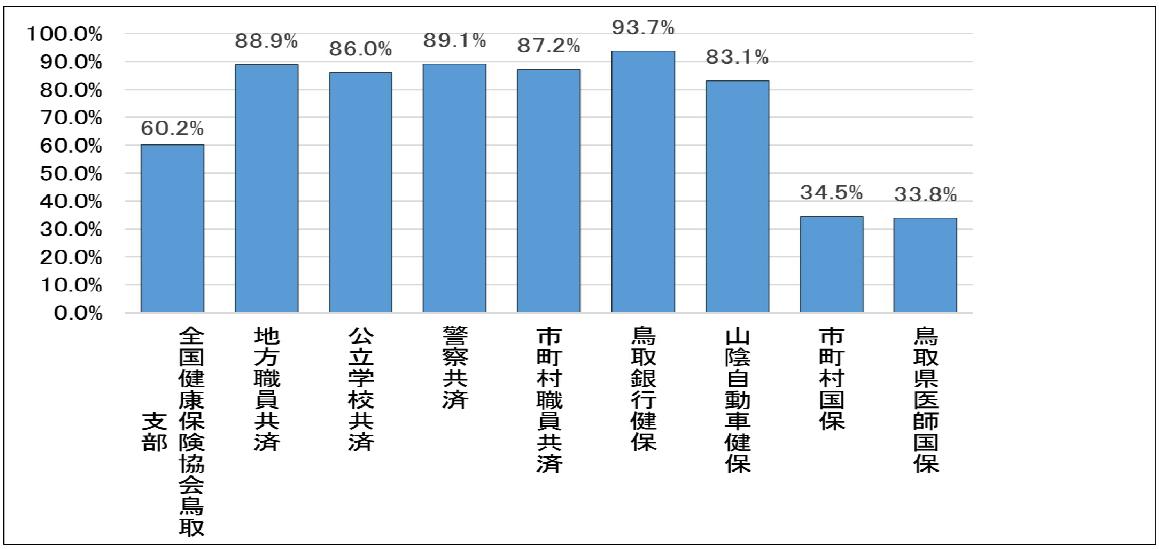
県内各保険者の特定健診対象者の殆どを全国健康保険協会（協会けんぽ）鳥取支部と市町村国保が占め、合わせて全体の 91.5%となっています。




（出典：令和３年度特定健診・特定保健指導実施状況（国への法定報告）

### イ　県内各保険者の特定健診受診率

特定健診受診率を保険者ごとに見ると、全国健康保険協会（協会けんぽ）鳥取支部と市町村国保が特定健診対象者のほとんどを占めているにもかかわらず、両者の受診率が低くなっています。

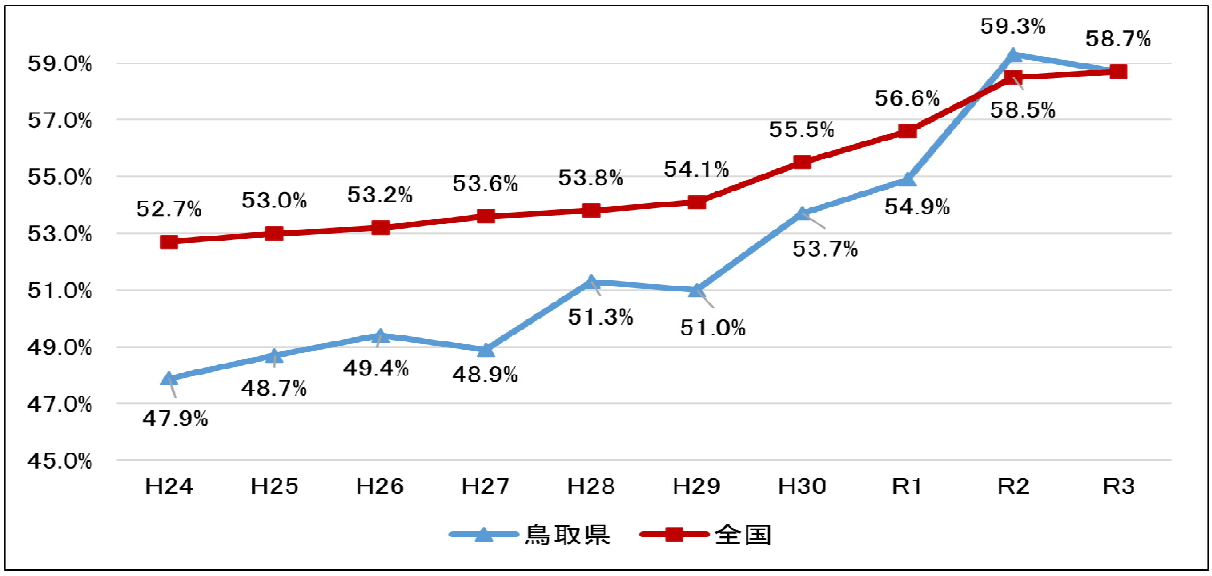



（出典：令和３年度特定健診・特定保健指導実施状況（国への法定報告））

## ５　本県の職域の健康状況

### （１）一般健康診断（※）の有所見率の推移

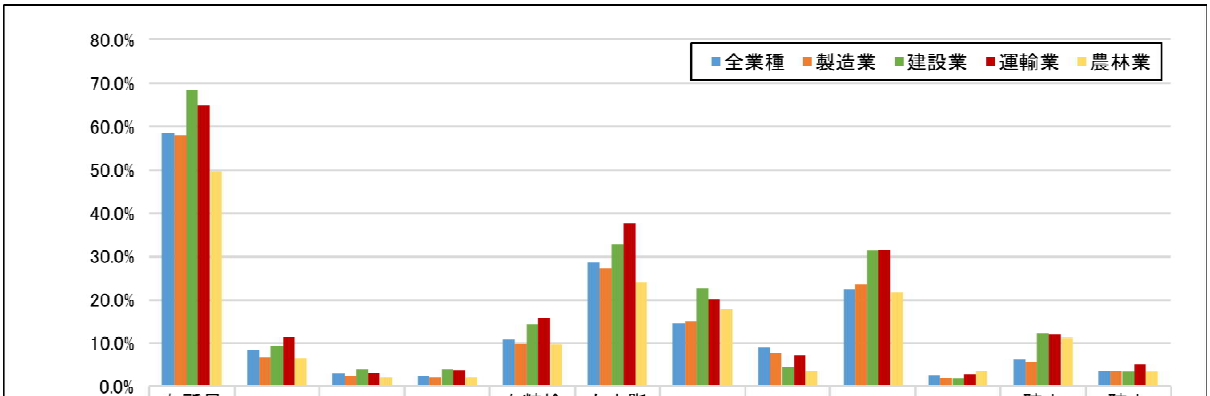
鳥取県における定期健康診断の有所見率は全国平均と同じ 58.7%で、およそ労働者の２人に１人に何らかの所見がある状況であり、長期的にみると増加傾向にあります。




（出典：鳥取労働局 HP「労働衛生統計資料」）

### （２）一般健康診断（※）の結果から見る鳥取県業種別の有所見率の状況（令和３年）

定期健康診断の健診項目をみると、血糖検査、血中脂質、肝機能、血圧が、有所見率が 10%超える項目です。中でも血中脂質が最も高くなっています。また、定期健康診断の有所見率を業種別にみると、建設業、運輸業が高く、多くの項目で他の業種の平均値より高くなっています。




| | 有所見率 | 心電図 | 尿(蛋白) | 尿(糖) | 血糖検査 | 血中脂質 | 肝機能 | 貧血 | 血圧 | 胸部X線 | 聴力(4000Hz) | 聴力(1000Hz) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全業種 | 58.7% | 8.5% | 3.0% | 2.5% | 11.0% | 28.6% | 14.6% | 9.0% | 22.4% | 2.7% | 6.3% | 3.7% |
| 製造業 | 58.0% | 6.8% | 2.5% | 2.2% | 9.9% | 27.3% | 15.1% | 7.8% | 23.6% | 2.1% | 5.7% | 3.7% |
| 建設業 | 68.5% | 9.3% | 3.9% | 3.9% | 14.5% | 32.8% | 22.7% | 4.6% | 31.4% | 1.8% | 12.4% | 3.4% |
| 運輸業 | 65.0% | 11.4% | 3.1% | 3.8% | 15.9% | 37.6% | 20.1% | 7.2% | 31.6% | 2.8% | 12.1% | 5.0% |
| 農林業 | 49.7% | 6.7% | 2.2% | 2.2% | 9.6% | 23.9% | 17.9% | 3.7% | 21.8% | 3.7% | 11.2% | 3.4% |

（出典：鳥取労働局 HP「労働衛生統計資料」）

（※）県内の５０人以上を使用する事業所から提出のあった一般健康診断のデータから分析したもの。



ココカラ げんき 鳥取県